

**第2期**

**朝霞市スポーツ推進計画**

**令和3年3月**

**朝霞市教育委員会**

はじめに

我が国は、AI等の技術革新、情報化社会の進展、利便性の向上等により、私たちの生活環境は日々大きく変化し、便利で快適な生活を送れるようになった反面、人間関係の希薄化、精神的なストレスの増大、運動不足、生活習慣病の増加等につながり、人々の健康を脅かしています。健康寿命の延伸などの多くの課題を抱える現代社会において、スポーツに親しむことは、明るく健康な生活を送るうえで、大きな意義を持っているものと考えられます。

スポーツには、自らの健康維持や体力増進だけでなく、コミュニケーションの手段、ストレスの発散、生活習慣病の予防、心身の健康の保持増進に大きな効果がある他、スポーツに親しむことにより興味や関心を高め、夢や希望等たくさんの感動を与えて、活力ある健全な社会の形成に大きく貢献する等、スポーツに期待される役割はますます増大しています。

平成30年9月にスポーツ庁は、スポーツ実施率向上のための行動計画を策定し、一人でも多くの方がスポーツに親しみ、人々の生活の中に自然とスポーツが取り込まれている「スポーツ・イン・ライフ（スポーツのある暮らし）」の社会の実現を目指しています。少子高齢化が進行しつつもスポーツのある暮らしの実現が、未来の生活の豊かさや、スポーツの推進と公共の福祉に貢献することにつながっていくことを期待しています。

本市では、平成28年12月に「健康づくり・スポーツ都市」を宣言し、市民一人ひとりが生涯にわたり、健康に関する意識を高め、スポーツに親しみ、地域のふれあいをとおし、明るく元気なまち「あさか」を実現できるように、さまざまなスポーツ政策に取り組んでいます。

このたび、平成23年度に策定しました「朝霞市スポーツ推進計画」が、計画期間の10年を終了することに伴い、スポーツ推進をより総合的かつ計画的に進めるため、「第2期朝霞市スポーツ推進計画」を策定しました。

結びに、本計画の策定にあたり、貴重なご意見をいただきました朝霞市スポーツ推進審議会委員の皆様をはじめ、関係者の皆様に心より御礼申し上げます。

令和3年3月

朝霞市教育委員会 教育長 三好 節

# ～ 目 次 ～

◆第1章 計画策定にあたって	1
1. 計画策定の趣旨	1
2. 計画の位置付け	1
3. 計画期間	1
4. 「スポーツ」の定義	1
◆第2章 朝霞市のスポーツの現状と課題	4
1. 市民のスポーツ実施状況	4
2. スポーツ施設等	5
3. スポーツ事業	7
4. スポーツ指導者・スポーツボランティア	8
5. スポーツ・レクリエーション活動の支援	9
6. 子どもの体力づくり	9
7. 関係部署との連携・協働	10
8. 新型コロナウイルス感染症対策	10
◆第3章 計画の考え方	12
1. スポーツ推進の目的	12
2. 計画の基本理念	12
3. 計画の目標	12
◆第4章 施策の体系	13
1. スポーツ活動の場づくり	15
2. スポーツ活動の推進	17
3. スポーツ活動の支援	23
◆第5章 計画の実現に向けて	28
◆資料	30
・スポーツに関するアンケート集計結果	30
・計画策定の経過	55
・朝霞市スポーツ推進審議会委員名簿	56

# 第1章 計画策定にあたって

## 1. 計画策定の趣旨

朝霞市では、「朝霞市スポーツ推進計画」（平成23年度から令和2年度（平成32年度）までの10年間の計画期間。以下「第1期計画」という。）の基本理念【誰もが いつでも どこでも楽しめる 生涯スポーツ社会の実現】に基づき、20歳以上の市民のうち55%が週1回以上スポーツを行うことを目標として、スポーツの推進を図ってきました。

また、この間、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会（以下「東京2020大会」という。）では、朝霞市に所在する陸上自衛隊朝霞訓練場で射撃競技が開催することが決定しました。（新型コロナウイルス感染症の世界的な拡がりにより、2021年に開催延期）

スポーツの機運が高まりをみせるなか、令和2年度を持って第1期計画の計画期間が終了することに伴い、市民のスポーツに関する意識や、スポーツ実施率を把握するため、スポーツに関するアンケート調査を実施し、第1期計画の見直しを行いました。これまでの取り組みの成果と現状の課題を踏まえて、国や埼玉県の計画を参酌するとともに、総合的、計画的にスポーツ推進に取り組んでいくため、第1期計画の基本理念と施策を引き継ぎ、新たに「第2期朝霞市スポーツ推進計画」（以下「本計画」という。）を策定します。

## 2. 計画の位置付け

本計画は、スポーツ基本法 第10条第1項に定める「地方スポーツ推進計画」、国の「第2期スポーツ基本計画」、埼玉県の「埼玉県スポーツ推進計画（第2期）」、本市の「第5次朝霞市総合計画」等、その他関連する諸計画との整合性を図り、スポーツ推進に関する総合的な計画として位置付けます。

## 3. 計画期間

本計画は、令和3年度から令和12年度までの10年間を計画期間とし、計画策定から5年を目途に「スポーツ実態調査」を実施して、取り組み内容の中間評価を行います。また、国や埼玉県の動向や社会情勢の変化等により、必要に応じて計画の見直しを行います。

## 4. 「スポーツ」の定義

スポーツ基本法では、スポーツの定義を「心身の健全な発達、健康及び体力の保持増進、精神的な充足感の獲得、自律心その他の精神の涵養等のために、個人又は集団で行われる運動競技その他の身体活動」としています。

「スポーツ」というと、汗を流して頑張っている体育会系の部活動や、アスリートによる競技性の高いものを想像されることが多いかもしれませんが、本来、「スポーツ」は競技の上手、下手に関係なく、自分のペースで気軽に楽しむものです。

そこで、本計画の「スポーツ」とは、①健康づくりのためのウォーキングや散歩、ストレッチや

軽い体操、レクリエーション活動などレベルや内容に関わらず身体を使った運動、②専用の道具を揃えて勝敗を目的とした野球やサッカー等の「する」スポーツ、③「みる」スポーツ（スポーツ観戦）と、スポーツの既成概念を幅広く捉えています。

また、スポーツには「する」、「みる」、「ささえる」、「つながる」という4つの要素が含まれており、それぞれが重要な役割を果たしています。



### (1) 「する」スポーツ

「する」スポーツとは、年齢や障がいの有無、初心者から上級者までの競技レベルに関わらず、自ら身体を動かすことです。スポーツを「する」ことは、勝敗などの結果だけではなく、パフォーマンスやフェアプレーといった内容そのものを楽しむことで喜びや達成感を得られます。また、継続的に実施「する」ことで体力の向上、生活習慣病やフレイルの予防・改善につながり、健康寿命の延伸・医療費の抑制といった効果が期待されます。

### (2) 「みる」スポーツ

「みる」スポーツとは、競技イベントや試合等のスポーツ観戦を通じてスポーツに接し、スポーツの魅力を感じることです。スポーツを「みる」ことで、感動したり、ストレス解消が図られたり、チームや選手を応援することで、人に活力を与える効果が期待できます。さらに、大規模な国際大会や全国大会等の試合を競技場や試合会場等で「みる」体験をすることは、非常に有意義で、スポーツの魅力を感じ、関心や興味を持ち、スポーツを「する」動機付けにつながります。

### (3) 「ささえる」スポーツ

「ささえる」スポーツとは、スポーツを「する」人を指導することで支える監督やコーチ等、競技イベントや大会で運営を支えるスタッフやサポーター、ボランティア等のようにスポーツ活動を支えたり、地域のスポーツ団体を側面から支援したりすることです。

スポーツを推進していく上で、「ささえる」人の存在は必要不可欠であり、また、スポーツを「ささえる」ことでスポーツを身近に感じ、一緒に参加することで人とのつながりを感じ、生きがいや活力の醸成につながります。

都市化やライフスタイルの多様化等により、地域のつながりの希薄化が大きな問題となっていますが、支える活動に参加することにより人々が交流・共感し合い、地域社会の絆やコミュニティの形成に効果が期待できます。

さらに、競技イベントや競技大会の開催は、多くのボランティア等によって、また、小・中学生の多くのジュニアスポーツは、保護者や地域の人々によって支えられており、スポーツをする人と共に喜びや達成感を得られる機会となっています。学校の部活動や地域のスポーツ活動を含め、スポーツは「する」人だけではなく、多くの「ささえる」人によって成り立っています。

#### (4)「つながる」スポーツ

「つながる」スポーツとは、「する」、「みる」、「ささえる」の3つのスポーツ活動を通じて、市民の交流や地域の絆を深めることで「つながる」仲間が増え、地域コミュニティを活性化し、市民の心身の健康増進につながります。他にも、例えば東京2020大会やラグビーワールドカップなどの大規模な国際大会や全国大会等の開催は、スポーツ機運の醸成に「つながる」ほか、スポーツを通じた交流人口の増加により、地域経済の活性化にもつながります。

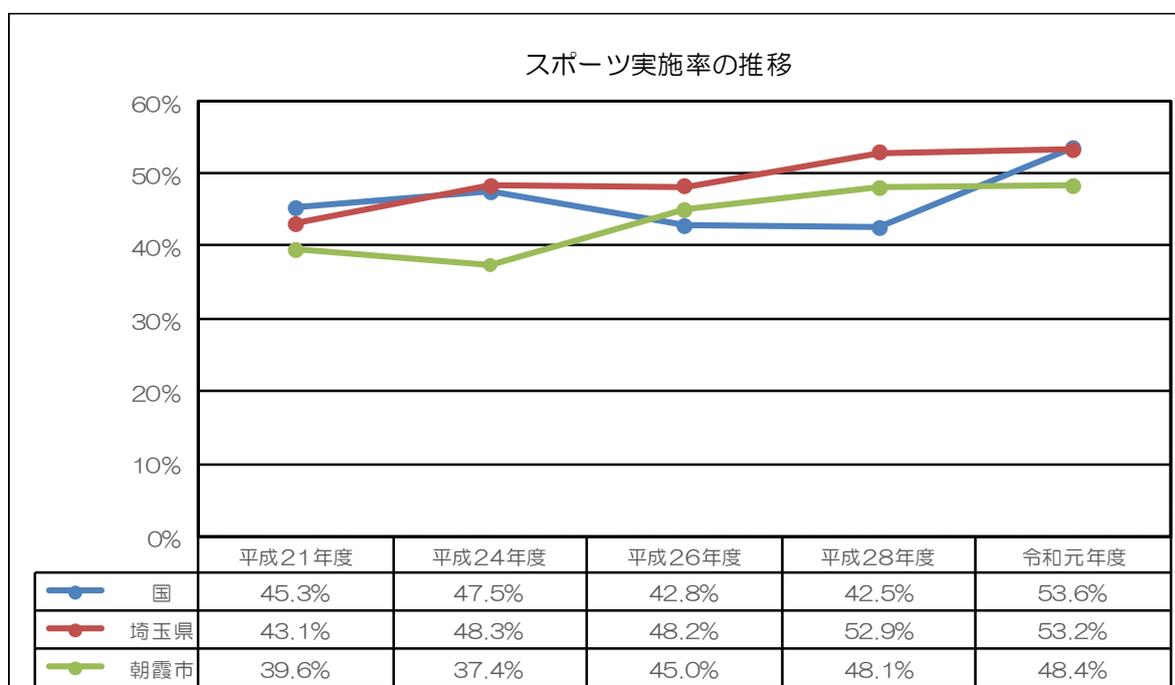
スポーツに関わることで、個人の健康への影響だけではなく、感動や興奮を分かち合い、人と人とがつながることで連帯感や絆が生まれ、組織や地域づくりにとって有益な効果が期待できます。

## 第2章 朝霞市のスポーツの現状と課題

朝霞市民のスポーツに関する意識やスポーツ実施率を把握し、現在の課題と今後の施策の方向性を見出すことを目的に、無作為抽出した20歳以上の市民2,000人を対象に、スポーツに関するアンケート調査を実施しました。

### 1. 市民のスポーツ実施状況

20歳以上の市民で、過去1年間に運動・スポーツをした方（P33◆問1）は、72.7%で、国が平成31年1月に実施した「体力・スポーツに関する世論調査」の80.2%と、比較して低い結果となっています。また、20歳以上の市民で週に1回以上、運動・スポーツをしている方の割合（P35◆問1-（3）・以下「スポーツ実施率」という。）は48.4%となっており、第1期計画の目標値である55%に到達していないため、スポーツ実施率を高める取り組みが必要です。



アンケートの集計結果より

#### ■運動・スポーツをする理由（P35◆問1-（2）・P49）

「健康・体力づくりのため」が75.2%と最も多く、前回調査と比較して3.2ポイントの増、「運動不足を解消するため」は58.8%で前回比12.8ポイントの増、「スポーツを楽しむため」は30.2%で前回比2.6ポイントの減となり、上位3項目は、前回調査と同様の結果になりました。また、職種を問わず「健康・体力づくり」及び、「運動不足を解消するため」定期的に運動・スポーツを行っている方が多いことから、「健康・体力づくり」への関心の高さが伺えます。市民のスポーツ実施率は、国・県と比較して高くはありませんが、健康増進のために運動・スポーツをする市民が多いことは、スポーツを推進していくうえで重要な要素となります。

■スポーツをしていない理由（P37◆問1－（7））

「仕事や育児等で忙しくて時間がない」が49.1%と最も多く、前回調査と比較して1.5ポイントの増、「運動するのが面倒、苦手だから」は21.0%で前回は4.3ポイントの増、「運動よりも他のことに興味があるから」は20.4%で、前回は4.9ポイントの増となりました。

◆問1－（8）（P37）で、今後条件がそろえば運動・スポーツをしたいですか？には、53.9%が「してみたい」と答えていることから、運動・スポーツの必要性は理解しているものの、行動に移せていない状況が伺えます。

仕事や家事、育児等で時間をとることが難しい人たちが、運動・スポーツのための時間を新たに捻出することは困難なため、仕事や育児の合間に軽い運動・スポーツを実施してもらうことが現実的であり、日常生活や職場内で簡単・気軽にできる体操やエクササイズを紹介し、スポーツやレクリエーション活動の機会を充実するほか、運動・スポーツに関心のない方に興味を持ってもらい、より多くの市民が生涯にわたって気軽に運動・スポーツを楽しめるよう、地域のスポーツ環境を整備する必要があります。

## 2. スポーツ施設等

施設名称	開設年月	施設概要
青葉台公園芝生広場	昭和58年2月	ソフトボール場兼少年野球場（1面）
青葉台公園テニスコート	昭和58年2月	砂入り人工芝コート（5面）
朝霞市立総合体育館	昭和57年5月	メインアリーナ、サブアリーナ、トレーニングルーム、ランニングコース
朝霞市立滝の根テニスコート	平成4年5月	クレーコート（3面）
朝霞市立武道館	昭和51年5月	柔道場、剣道場、相撲場
朝霞中央公園野球場	昭和57年4月	硬式・軟式野球場（1面）
朝霞中央公園陸上競技場	昭和57年4月	全天候型トラック（1周400メートル） 人工芝フィールド（68m×105m）
上野荒川運動公園サッカー場	平成4年3月	サッカー場兼ラグビー場（1面）
上野荒川運動公園野球場	平成4年3月	硬式（少年）・軟式野球場（1面）
内間木公園弓道場	平成11年6月	近 的 6 人 立 ち
内間木公園ソフトボール場	平成11年6月	ソフトボール場（1面）
内間木公園テニスコート	平成11年6月	砂入り人工芝コート（2面）
北朝霞公園野球場	昭和51年12月	軟式野球場（1面）
弁財公園テニスコート	昭和51年12月	クレーコート（2面）
溝沼子どもプール	昭和63年7月	幼児プール、児童プール、コースタープール

わくわくどーむ(健康増進センター)	平成6年7月	温水プール、トレーニングルーム、スタジオ、リフレッシュルーム
-------------------	--------	--------------------------------

※朝霞市立総合体育館…令和元年～2年改修工事実施

※朝霞中央公園陸上競技場…平成25年改修工事実施

※内間木公園テニスコート…平成24年改修工事実施

現在、本市には16か所の公共スポーツ施設があり、溝沼子どもプールを除く15施設は、指定管理者制度にて管理・運営し、多くの市民に利用していただいています。これらの施設は一部を除いて経年劣化等により、整備が必要な施設もあることから、利用者が安全・安心・快適に利用できるよう、また、施設の長寿命化を図るためにも、計画的な改修・修繕工事を検討し、実施していく必要があります。

アンケートの集計結果より、スポーツ施設について（P43◆問9～P45◆問11-（1））の意見をもとに、現状と課題についてまとめた結果は以下のとおりです。

- 普段の運動やスポーツをしている場所は、公共スポーツ施設や公園・広場等、身近な場所で活動している方が多いことがわかります。
- 市内の公共スポーツ施設を知らない方や、スポーツができる場所の施設情報が不足していると感じている方が多いことから、市民へ施設情報が十分には行き届いていないことがわかります。
- 公共スポーツ施設は人気があり、多くの市民の方に利用していただいています。しかし、「施設を利用したくても、利用者が多くて利用できない」、「予約が取りにくい」という声が多く寄せられていることから、「施設全体数が少ない」、「施設が不足している」と感じている方が多いことがわかります。
- ニュースポーツに対応できる施設を求める声が多く、ニュースポーツに挑戦したくても活動できる施設がないため、活動をすることを断念している方も少なからず存在しています。既存施設の改修・修繕工事を行う際に、ニュースポーツにも対応できる施設にリニューアルして、ニュースポーツの体験教室やイベント等の開催を検討していく必要があります。
- 公共スポーツ施設の使用料について（P45◆問10-（2））は、74.3%の方が「適当である」と回答されています。使用料は、民間のスポーツ施設より割安に設定しており、使用料収入だけでは適正な施設運営を継続していくことは難しいため、スポーツ実施率の向上につなげるためにも、施設の特性を活かした指定管理者の自主事業や、市民が参加したくなるスポーツイベント等の開催をして、施設運営費を確保する等の収益の改善を図っていく必要があります。

身近にある施設や場所を気軽に使えることで、スポーツ実施率の向上につながります。市内を流れる黒目川の豊かな自然を生かした遊歩道等で、散歩やウォーキングを楽しむ方が多いことから、公共スポーツ施設以外の身近な活動場所を含め、気軽に楽しめるように環境整備をしていく必要があります。

スポーツ施設の充実、市民が生涯にわたって多様なスポーツに親しみ、健康で明るく豊かなスポーツライフを実現する基盤となるもので、スポーツを楽しむ環境づくりを目指すうえで重要です。

今後のスポーツ推進の観点から、ユニバーサルデザインを取り入れた施設整備を検討していく必要があります。

地域スポーツをめぐる資源不足は、本市に限らず全国の自治体でも大きな課題となっています。人口減少や財政難等により、公共スポーツ施設数の減少が見込まれる中、施設の新設が期待しにくい公共スポーツ施設や学校体育施設等については、既存施設を有効活用して、多くの市民が運動・スポーツに親しめるように、安全・安心・気軽に運動・スポーツができる施設や場所の確保・充実を図っていくことが重要です。

また、市内16か所の公共スポーツ施設では、各施設の特色に応じた利用をいただいています。一人でも多くの市民が運動・スポーツに取り組んでいただけるよう、その施設の規定の種目に拘わらず他の種目へ利用を拡大することや、市民スポーツ教室、小学生スポーツ教室等の市スポーツ事業（イベント）で利用することを検討し、どのような種目に利用を拡大することが可能か、他市の取り組み状況や利用例を踏まえて、調査・研究に努めます。

### 3. スポーツ事業

スポーツに関心や興味を持ち、モチベーションを高めて継続して取り組んでもらえるきっかけづくりとするため、市民を対象にした市民スポーツ教室や、市民体育祭などの市スポーツ事業（イベント）を実施しています。

事業名	事業概要	対象者
市民スポーツ教室	朝霞市スポーツ推進委員連絡協議会が中心となり、スポーツの普及啓発を図るため、市民のためのスポーツ教室を開催しています。	市民
小学生スポーツ教室	健全な身体と心を育てていく観点から、運動能力の向上を図るため、小学生を対象としたスポーツ教室を開催しています。	小学生
市民体育祭	朝霞市スポーツ推進委員連絡協議会や朝霞市体育協会加盟団体が中心となり、市民の健康増進・体力向上・地域の絆づくり・交流の場として、地域スポーツの振興・活性化を促進するため、毎年10月に市民体育祭を開催しています。	市民
ロードレース大会	持久走の普及や体力の向上を図るため、幅広い世代の市民が参加する機会と、時間測定を提供するとともに、市民相互の交流を図るため、毎年11月にロードレース大会を開催しています。	小学生以上

このほかにも、ふれあいスポーツ大会、高齢者スポーツ大会のほか、わくわくどーむや各公民館で実施している体力の維持・健康増進に関する自主事業や、スポーツ指導者の育成と資質の向上を図るため、指定管理者によるスポーツ・レクリエーション指導者育成講習会や各種教室等を開催しています。また、朝霞市体育協会加盟各団体が実施している市民総合体育大会種目別大会や、東京2020大会の開催に関連した、機運醸成を図るための各種事業やイベントを開催しています。

アンケートの集計結果より、市スポーツ事業（イベント）の参加状況（P46◆問12）について、82.5%の方は「参加したことはない」と回答し、参加しなかった理由（P46◆問12-（2））は、「内容を知らない」（42.7%）、「日程が合わない」（26.6%）、「開催情報がない」（23.8%）、「イベントに魅力を感じない」（23.2%）の順になりました。

これまで広報、市ホームページ、ツイッター等のさまざまな情報発信ツールを活用して、市民へ市スポーツ事業（イベント）の開催情報等の周知を図ってきましたが、アンケートの結果では、市スポーツ事業（イベント）の「内容を知らない」、「開催情報が分からない」方が、66.5%にのぼることから、情報が十分に行き届いていないことがわかります。

市スポーツ事業（イベント）等のスポーツに親しむきっかけづくりに加えて、情報を必要とする方に確実に届き、スポーツに対する関心や興味を持ってもらえるような情報を伝えていく必要があることから、伝える相手（ターゲット）を見極めて、より多くの市民に情報が届けられるような効果的な周知方法の調査・研究に努めていきます。

一方、市スポーツ事業（イベント）に参加したことがある方（P46◆問12-（1））のうち、楽しかった（満足だった）と回答された方が43.9%にとどまったことから、楽しく参加ができ、年代や各ライフスタイルに応じたニュースポーツの体験会やイベント等の開催を検討するとともに、他市の取り組み状況や導入例等の調査・研究に努めていきます。

#### 4. スポーツ指導者・スポーツボランティア

現在、本市では朝霞市スポーツ推進委員連絡協議会や、朝霞市体育協会に加盟している各競技団体等の指導者が、市民のスポーツ活動を支援しています。市民のスポーツ推進を図るために、市民スポーツ教室や、市民体育祭等の市スポーツ事業（イベント）で中心となって活動している、朝霞市スポーツ推進委員の認知（P41◆問6）について、「知らない」と回答された方が、75.3%にのぼることから、市民のスポーツ活動を支援しているスポーツ推進委員の知名度が低い状況となっており、朝霞市スポーツ推進委員の知名度を向上させる必要があります。

アンケートの集計結果（P41◆問6-（1））より、「体を動かす楽しみ方やスポーツへの関心・興味がわくような指導者」（66.9%）や、「健康・体力づくりのための指導者」（60.9%）を必要としている方が多く、指導者不足により能力や実力を発揮できずに、運動・スポーツ活動を断念したり、活動に支障が生じている方も少なからずいると思われ、市民がスポーツ指導者を求めていることがわかります。

スポーツの推進・活性化を図るためには、質の高い指導者の人材育成が必要不可欠であり、生涯にわたりスポーツを楽しんでもらえるよう、スポーツ指導者や関係スポーツ団体等と市民が、自発的にスポーツに関わる仕組みを整備し行く必要があります。朝霞市スポーツ推進委員や、朝霞市体育協会加盟団体等の指導者を有効活用してもらうためにも、存在を広く市民に周知し、市民のスポーツ活動を支えていくことが必要です。

また、過去1年間にスポーツに関するボランティア活動の経験が「ある」方（P39◆問4）は、6.4%と1割にも満たない状況となっています。ボランティア活動の経験が少ない要因は、個々の大会限りの参加になり、ボランティア活動の継続性がない、スポーツボランティアを活用するノ

ウハウが確立されていない等の問題が指摘されているため、スポーツボランティアの確保・増員を図るとともに、資質向上を目的とした講習会や講演会等を開催し、スポーツボランティアの人材育成・確保に努めていくことが重要です。

さらに、各公共施設の掲示板や市ホームページ等の情報発信ツールを活用して、随時ボランティアの活動情報を提供し、スポーツボランティアを適切に活用するとともに、市民にボランティア活動への参加の拡大及び推進を図っていきます。

## 5. スポーツ・レクリエーション活動の支援

誰でも参加でき、親しめるスポーツ・レクリエーション活動は、市民の健康づくりや交流の場として重要な役割を果たしています。市では、市民スポーツ教室や市民体育祭等の市スポーツ事業（イベント）を開催し、市民にスポーツ・レクリエーション活動に親しむさまざまな機会を提供していますが、生活スタイルの多様化や超高齢社会の到来に伴い、スポーツ・レクリエーション活動の推進の必要性はますます高まっています。

現在、本市では朝霞市スポーツ推進委員連絡協議会や朝霞市体育協会に加盟している各競技団体、東洋大学等の関係団体と連携を図り、支援や協力をいただきながら、市民スポーツ教室や市民体育祭等の市スポーツ事業（イベント）の運営を行っています。関係団体の支援・協力なしでは事業が成り立たない状況であることから、スポーツ・レクリエーション活動の推進・普及を促進し、地域のスポーツ振興を図るうえでも、スポーツ活動をささえる団体への連携・支援が必要です。

また、本市の朝霞市スポーツ推進審議会に関する条例に規定する、合議制の機関である朝霞市スポーツ推進審議会では、第1期計画の策定及び、計画に基づいた施策や各種事業の取り組み等について、必要に応じた内容の見直しを行い、スポーツの推進に関する事項の調査・審議をし、効果的な実施に努めています。

健康志向の高まりや生きがいづくり、ニュースポーツやレクリエーション活動の普及などにより、スポーツに対する市民の要望やニーズは、以前にも増して多様化しており、世界的なスポーツの祭典である東京2020大会の開催を身近に感じることで、市民のスポーツに対する志向も今後変化することが考えられます。

地域のスポーツの推進に携わるスポーツ団体への活動支援や連携強化を通じて、市スポーツ事業（イベント）や大会等でスポーツを支える人材が活躍できる環境整備、スポーツ指導者の人材育成をし、スポーツ・レクリエーション活動の推進と支援を図ります。

## 6. 子どもの体力づくり

子どもの体力向上のための取り組みとして、平成29年度に小学5年生と中学2年生を対象に国が実施した「全国体力・運動能力、運動習慣等調査報告書」によると、運動やスポーツが好きな子どもは、中学2年生の方が小学5年生より低く、特に中学生の女子の2割以上が「嫌い」、「やや嫌い」となっています。運動やスポーツが「嫌い」な子どもの割合は、小・中学生の男女とも年々増加していることから、子どもの体力低下が指摘されています。

昭和60年頃から子どもの体力の低下傾向が続き、平成10年頃からは、低い水準で横ばい状態

となっています。体力低下の主な原因として、室内で家庭用ゲーム機やスマートフォン等で遊ぶことが多くなり、外で遊ぶことが少なくなったこと、生活の利便化に伴い、日常生活で身体を動かすことが少なくなり生活環境が変化したこと、食生活や睡眠等の子どもの生活習慣が不規則になったことといったさまざまな要因が絡み合い、結果として子どもが身体を動かす機会が減少し、体力低下につながったといわれています。

体力・運動能力は、子どもの時期に大きく発達して、大人から高齢者の時期に低下していくといわれています。子どもの時期に運動習慣や良い生活習慣を身につけて、体力・運動能力を高めることが生涯の体力・運動能力を保つことにつながります。そのため、嫌いや苦手だけでなく、運動やスポーツをしない子どもに市のスポーツ事業（イベント）の他、外遊びやスポーツへの参加を促し、運動やスポーツに親しめる場や機会の提供等の働きかけをして、子どもが積極的に外遊びやスポーツに親しむ習慣や意欲を培うなど、子どもたちの心身の健全な発達及び体力・運動能力の向上が図られる取り組みをしていくことが必要です。

近年、体力が「ある子ども」と「ない子ども」の格差が広がっており、積極的に運動やスポーツをする子どもと、しない子どもで運動習慣の二極化が顕著に見られることから、運動習慣が身につけていない子どもに対する支援を本市のみならず、全国的に取り組んでいく必要があります。

## 7. 関係部署との連携・協働

市民の誰もが生涯にわたり健康な生活が送れるよう、スポーツを気軽に楽しめる「生涯スポーツ社会」を実現し、健康増進・健康寿命の延伸につながる取り組みが求められています。今後、少子高齢化と人口減少の進展が見込まれるなか、健康を保っていくためには老若男女を問わず、運動・スポーツ活動をする習慣を身につけていくことが重要であり、指定管理者、学校教育、福祉、保健等の関係部署や関係団体等が幅広く連携・協働して、運動・スポーツ活動の多様な機会の創出を図り、運動・スポーツ活動の習慣化を図って行くことが必要です。また、地域でのスポーツ活動を通じ、市民の交流を深め、地域コミュニティの醸成や地域の活性化につなげるための取り組みが必要になってきます。

## 8. 新型コロナウイルス感染症対策

国は、新型コロナウイルスが世界的にまん延（パンデミック）したことによる感染者の急増を踏まえ、改正新型インフルエンザ等対策特別措置法に基づく「緊急事態宣言」を発令しました。宣言下では、不要不急の外出や活動が制限され、学校は長期休校、職場はテレワークが中心の生活になり、さまざまなスポーツイベントが中止・延期となりました。

また、プロスポーツも中止や無観客試合が続き、スポーツ観戦が大きく制限されるほか、これまでの日常からスポーツ活動が制約を受けるなど、私たちの生活は大きく変化しました。外出自粛や活動制限が続いたことで、1日あたりの活動量の低下に伴う運動不足、体重の増加、生活習慣病の発症や悪化、ウイルス感染への不安やストレスの蓄積に伴う、体調不良等の声が多く聞かれるようになりました。

一方、外出自粛や活動制限の中でも、少しでも身体を動かす機会を作ろうと、ウォーキングやジ

ヨギング、屋内でのエクササイズを行うなど、これまで以上に健康に対する意識が高まり、健康維持に努める方も増えています。

新型コロナウイルスの感染が終息していない状況下では、学校体育の授業や運動部活動の他、地域での運動・スポーツ活動も制約がかかっており、これまでの日常のように安心して運動・スポーツ活動を実施することが難しくなりました。また、体重のコントロールや、生活習慣病の予防・改善、自己免疫力の向上や感染に対する抵抗力の保持・増進等、身体的及び精神的な健康を維持するためには、適度に運動・スポーツ活動を行うことが有効です。心身の健康への意識が高まる中、感染者の発生予防のため、3密（密閉・密集・密接）の回避、手洗いや消毒、換気など感染防止対策を徹底していく必要があります。

本市では、平成28年12月に「健康づくり・スポーツ都市」を宣言し、市民一人ひとりが生涯にわたり、健康に関する意識を高め、スポーツに親しみ、地域のふれあいを通じて、健康づくり・仲間づくりにつながり、明るく元気な健康のまち「あさか」の実現を目指して4つの目標を掲げ、「健康づくり・スポーツ都市」を推進しています。これらの目標達成に向けて、短時間でも継続して運動やスポーツ活動をする習慣が身につくよう、気軽に運動やスポーツを行えるように環境整備をし、運動やスポーツ活動の機会の拡大を図るとともに、学校教育、福祉、保健等の関係部署と連携しながら、各種スポーツ事業の開催・推進を図って行く必要があります。

～ 健康づくり・スポーツ都市 ～

1. 健康づくりに心がけ、毎日を明るく楽しくいきいきと過ごします。
2. 適度に体を動かし、バランスのとれた食生活を送ります。
3. スポーツをとおし、健康で豊かな心と体をつくります。
4. 健康づくりとスポーツをとおし、地域の絆を深め、ふれあいの輪を広げます。

# 第3章 計画の考え方

## 1. スポーツ推進の目的

日本は、超高齢社会に突入し、単身や少人数世帯が増加することに伴うライフスタイルの多様化等を背景に、社会環境が大きく変化しています。地域住民同士のつながりや支え合い等の人間関係が希薄化しており、家庭や地域社会の教育力の低下が指摘されています。運動不足や生活習慣病の増加、精神的なストレスの増大等、心身の健康上の問題も顕在化し、健康な生活への意識・関心が高まるとともに、スポーツの果たす役割は今後ますます重要になります。さらに、スポーツを媒体とした青少年の健全育成や地域コミュニティの形成等へも効果が期待されています。

## 2. 計画の基本理念

第1期計画では、【誰もが いつでも どこでも楽しめる 生涯スポーツ社会の実現】を基本理念に掲げ、スポーツの推進に努めてきました。本計画においてもスポーツの持っている力を最大限に引き出すことにより、市民一人ひとりがスポーツを通じて健康な生活が送れるよう、第1期計画で定めた基本理念と、計画の実現に向けた施策・考え方を受け継ぐこととし、市民・関係スポーツ団体・行政が一体となって、スポーツの推進を目指して取り組んでいきます。

## 3. 計画の目標

第1期計画では、20歳以上の市民のうち55%が週1回以上スポーツを行うことを目標に、スポーツの推進を図ってきました。令和元年度に実施したアンケートの集計結果では、本市のスポーツ実施率（P35◆問1-(3)）は48.4%と第1期計画の目標に近づいている状況ではありますが、国や埼玉県のスポート実施率には届いていません。

東京2020大会で本市は、射撃競技の会場市となっています。東京2020大会の開催を契機に、市民スポーツへの関心がこれまでも増して高まり、スポーツを通じた健康づくりや生きがいづくりなどのスポーツの力を再認識する絶好の機会となることで、さまざまなスポーツ大会やイベントの開催、レクリエーション活動の普及等につながり、スポーツ実施率の上昇が見込まれると予想されています。

また、スポーツ実施率を高めていくことで、健康増進・健康寿命の延伸につながる等の効果が期待できることから、「みる」、「ささえる」、「つながる」スポーツから「する」スポーツにつなげ、60%のスポーツ実施率を目標に、スポーツの推進に取り組んでいきます。

20歳以上の市民のうち、60%が週1回以上スポーツを行うことをめざして、スポーツ活動の推進に取り組んでいきます。

(※国・埼玉県の今後5年間のスポーツ実施率は、65%を目標として掲げています。)

# 第4章 施策の体系

## 1. スポーツ活動の場づくり

### (1) 公共スポーツ施設の整備・充実

- ・ 指定管理者制度によるスポーツ施設の管理運営
- ・ 老朽化したスポーツ施設の計画的な整備
- ・ バリアフリー化の推進

### (2) スポーツ活動が可能な場の有効活用

- ・ 学校体育施設の開放
- ・ 高校・大学・民間企業との連携強化
- ・ 身近な場所の有効活用

## 2. スポーツ活動の推進

### (1) スポーツ事業の充実

- ・ 市民体育祭を始めとする各種大会の充実
- ・ 各種教室の充実
- ・ 観戦するスポーツの推進

### (2) 成人のスポーツ活動の推進

- ・ 気軽に参加できるスポーツの推進
- ・ 親子スポーツ事業の推進

### (3) 子どものスポーツ活動の充実

- ・ 小学生向けスポーツの充実
- ・ 学校体育の充実
- ・ 学校における運動部活動の支援

### (4) 障がいのある方のスポーツ活動の充実

- ・ ふれあいスポーツ大会の開催
- ・ 障がいのある方のスポーツ活動の参加機会の拡大

**(5) 高齢者のスポーツ活動の充実**

- ・高齢者スポーツ大会の開催
- ・高齢者健康保持・筋力向上トレーニングの開催

**(6) 競技スポーツの支援**

- ・表彰制度の充実
- ・市民体育振興奨励補助金の交付
- ・競技スポーツの情報発信

### 3. スポーツ活動の支援

**(1) 団体の育成・支援**

- ・体育協会及び加盟団体との連携強化
- ・スポーツ団体への助成
- ・総合型地域スポーツクラブの検討

**(2) 指導者の育成・支援**

- ・スポーツ推進委員の活用・支援
- ・スポーツ・レクリエーション指導者育成講習会の開催
- ・スポーツリーダーバンクの活用

**(3) スポーツ情報の充実**

- ・広報あさかや市ホームページへの掲載
- ・パンフレット・チラシの充実
- ・メディアを活用した情報発信

## 1. スポーツ活動の場づくり

市民が生涯にわたってスポーツやレクリエーション活動を楽しむためには、自発的にスポーツ活動を行うための環境整備をすることが重要です。多様化する市民ニーズに応えるため、教育活動に支障のない範囲で休日や夜間等に小・中学校の校庭や体育館を開放したり、身近な公園や広場等を有効活用して市民のスポーツ活動の場として提供していきます。

### (1) 公共スポーツ施設の整備・充実

市民がスポーツ活動をするうえで、身近な場所で気軽に運動・スポーツを楽しむことができるよう環境整備をすることが重要です。身近な場所を確保していくためには、公共スポーツ施設を適切に管理運営し、利用促進を図るとともに、公共スポーツ施設を有効活用していくことが必要です。また、利用者の利便性の向上を図るため、ユニバーサルデザインの導入や環境面にも配慮した施設環境の改善に努めていきます。既存のスポーツ施設を有効活用するためにも、計画的な改修・修繕工事について検討を行い、第5次朝霞市総合計画との整合性を図りながら、計画的な整備・充実に努めていきます。

主な取り組み	内 容
指定管理者制度によるスポーツ施設の管理運営	効率的な運営やサービスの維持・向上、利便性や安全性など、目的に則り適切に管理運営されているかどうかを検証（モニタリング）し、誰でも気軽に利用しやすい施設を目指して、指定管理者と連携を図りながら、効率的な施設管理・運営に努めていきます。また、施設を活用した新しい価値を生み出す運営手法や、施設の予約システムの更新を検討し、利用者が安全で快適に利用できるように利便性、サービスの向上に努めていきます。
老朽化したスポーツ施設の計画的な整備	開設後、築年数の経過による老朽化対策が課題となっていることから、施設の担うべき機能等施設全体のあり方を関係部署と連携しながら検討し、施設設備の機能維持・充実に努めていきます。また、スポーツ振興くじ（toto・BIG）助成金等を活用して、他の施設との適切な機能分担を図りながら、長期改修・修繕計画に基づく施設設備の改修・修繕工事を実施し、効率的な維持管理に努めていきます。

主な取り組み	内 容
バリアフリー化の推進	バリアフリー化というと、障がいのある方だけのものというイメージが強いですが、体力が低下した高齢者や成長過程にある子ども等にも共通しています。高齢者から子どもまで、あらゆる年代の方が施設を安全・快適に利用することを想定し、分かりやすい案内表示や、車いすやベビーカー等の方でも利用しやすいように、多機能トイレ・スロープの設置や駐車場の確保などの環境整備をしていく必要があります。また、誰でもスポーツに親しみ、安全・快適に利用できるように、あらゆる年代の方の利用に配慮した、施設のバリアフリー化の推進に努めていきます。

## (2) スポーツ活動が可能な場の有効活用

運動やスポーツは、専用の施設でないと実施できないわけではありません。中には専用の道具や環境が整ったスポーツ施設でないと活動できないものもありますが、学校の校庭や体育館、公園、広場、黒目川遊歩道、シンボルロード等、スポーツ施設以外の場所でも運動やスポーツを行うことができます。スポーツ実施率の向上につなげるためにも、スポーツ施設以外の場所でも、安全にスポーツ活動やレクリエーション活動が行えるよう、環境整備をしていくことが必要です。公共スポーツ施設は利用の限界があるため、今後も市民のニーズ等を踏まえながら、限られた場所を有効活用できるよう、スポーツ活動が可能な場所の確保・充実に努めていきます。

主な取り組み	内 容
学校体育施設の開放	学校体育施設は、日本のスポーツ施設の全体の約6割を占めているといわれています。本市では全15校の小・中学校で、教育活動に支障のない範囲で、校庭や体育館等の学校体育施設を無料（一部有料）で広く開放しており、年間を通じて多くのスポーツ・レクリエーション団体に利用していただいています。単なる場の開放にとどまらず、地域のスポーツ施設として有効活用することにより、地域住民の健康増進を図る観点や、学校が持つ地域コミュニティの核としての機能を高める効果が期待できます。市民にとって最も身近なスポーツ活動の拠点として、気軽に利用できるように、学校体育施設開放の円滑な運営及び管理について、効果的な利用のあり方を調査・研究し、充実に努めていきます。

### 学校体育施設開放 年間利用状況

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
開放学校数	15校				
利用人数	174,514人	168,487人	179,483人	179,404人	158,972人

主な取り組み	内 容
高校・大学・民間企業との連携強化	市民の多種多様なニーズに対応するためには、利用できるスポーツ施設を拡充していくことが重要です。市内県立高校2校、連携協定を締結している大学や民間企業にも協力していただく必要があります。それぞれが所有・管理しているスポーツ施設を、活動に支障のない範囲で市民のスポーツ活動の場や、スポーツ教室やイベント等の開催の場として、施設及び人材等の資源の有効活用を図っていきます。また、部活動の盛んな市内県立高校2校、大学や民間企業とタイアップをして、スポーツ推進につなげるためのスポーツ教室や、イベント等の企画の開催・検討をしていきます。
身近な場所の有効活用	公共スポーツ施設以外で、運動やスポーツ活動を行っている場所（P43◆問9）として、生活に身近な公園や広場等で活動をされている方が多いことが、アンケートの集計結果からわかります。市民の健康増進やスポーツ実施率の向上につなげられるように、生活に身近な公園や、豊かな自然を生かした黒目川遊歩道、シンボルロード等を地域のスポーツ活動の場として、有効活用できるように環境整備をし、気軽に運動やスポーツ活動に親しむ機会の創出を図っていきます。

## 2. スポーツ活動の推進

スポーツは、単に健康・体力づくりに効果があるというだけでなく、ストレス解消、生活習慣病の予防など、心身の健全な発達に必要不可欠なものであり、充実した生活をもたらすものとして大きく期待されています。老若男女を問わず、健康な生活を送れるよう、運動やスポーツ活動をする機会の拡大を図るとともに、健康増進・健康寿命の延伸につながる取り組みの推進に努めていきます。

### (1) スポーツ事業の充実

スポーツは、年齢や性別、障がいの有無に関係なく、全ての方が平等に参加できる権利という理念を踏まえ、気軽に楽しく運動やスポーツ活動に親しむことができるように、スポーツ施設の利用者の声を参考にして、市民のニーズを踏まえたさまざまなスポーツ事業の開催・充実に努めていきます。

主な取り組み	内 容
市民体育祭を始めとする各種大会の充実	毎年10月に開催している市民体育祭は、地域の結束力を高める機会、地域間の交流の場と捉え、競技種目の見直しをしながら、今後も継続して開催していきます。また、市民のスポーツへの関心や、興味を高めるため、朝霞市体育協会加盟団体等と連携して、幅広い世代を対象とした各種スポーツ大会やイベントの開催・充実を図っていきます。
各種教室の充実	生活スタイルの多様化、人生100年時代の超高齢社会の到来に伴い、スポーツ活動に対する重要性が高まっています。市民が気軽に参加できるように、各種教室の充実を図り、指定管理者の自主事業や、朝霞市体育協会加盟団体等が実施する各種教室や大会の推進・支援に努めていきます。また、多様なスポーツを紹介することで、認知度の向上を図り、誰でも楽しめるスポーツの普及啓発に努めていきます。
観戦するスポーツの推進	スポーツには、スポーツを「する」だけでなく、「みる」ことを通じて感動の共有や気分転換、ストレス解消などの効果が得られることから、競技場やテレビ等で「みる」（観戦する）スポーツの重要性が高まっています。東京2020大会の開催を前に、各スポーツの世界的イベントが相次いで開催され、日本代表チームや選手への期待や注目度も高まっています。競技レベルの高い試合や練習等を間近で見ることにより、スポーツの魅力を伝えて、スポーツを「する」動機付けや、好きになるきっかけにつながると考えます。また、本市出身のアスリートをみんなで応援することで、アスリートの力になって、更なる活躍につながるだけでなく、応援を通じて人を元気づけ、人と人を結びつける力や、地域に活力をもたらす効果等が期待できます。本市出身のアスリートが出場する試合や、大会等の情報を積極的に発信し、観戦するスポーツの機会の推進に努めていきます。

## (2) 成人のスポーツ活動の推進

スポーツ活動は、楽しんで行うことで体力向上やストレス解消、病気の予防など心身両面の健康づくりに効果があります。しかし、成人期は、仕事や子育て等で運動やスポーツ活動の時間がとれず、取り組めない方が多い一方で、ストレス解消、健康維持・増進、仲間づくりや地域社会との関わり合

い等、スポーツ活動の果たす役割が大きい時期であると同時に、競技力や技術力の向上を目指す時期でもあります。多くの方が、運動やスポーツ活動をすることの必要性・重要性を理解していることから、運動が苦手なスポーツ活動に消極的な方でも、気軽にスポーツ活動に取り組めるよう、成人のスポーツ活動の推進に努めていきます。

主な取り組み	内 容
気軽に参加できるスポーツの推進	<p>全ての方の事情にあわせて、個々にスポーツを実施してもらう機会をつくることは困難ですが、スポーツを始める動機付けや、きっかけとなるように、関係スポーツ団体等と連携して、気軽に参加できるスポーツイベントや体験教室等の開催に努めていきます。また、日本ではまだ認知度が低いeスポーツや、多種多様なニュースポーツを紹介することで、認知度の向上を図り、誰でも楽しめるように、遊びの要素を取り入れたスポーツの調査・研究、普及啓発に努めていきます。</p>
親子スポーツ事業の推進	<p>生涯にわたって運動・スポーツに親しむためには、幼児期から身体を動かす楽しさや心地よさを体験し、習慣づけることが大切であると考えます。運動・スポーツをする習慣を身につける上で、家庭環境が重要な役割を果たすと考えられることから、家庭で外遊びや運動・スポーツの重要性について正しい認識を持ち、理解を深める必要があります。親子での運動・スポーツの実施の促進に向けた取り組みが必要であることから、仕事や子育て等で時間がなく、一緒に運動・スポーツをする機会がない親子を対象に、家族ぐるみで気軽に楽しめる親子スポーツ事業の開催・充実に努めていきます。</p>

### (3) 子どものスポーツ活動の充実

家庭用ゲーム機やスマートフォンの普及により、子どもたちの遊びにも変化がみられ、日常生活で身体を動かす機会が減少してきており、子どもの体力低下が指摘されています。子どもの体力向上を図るためには、身体を動かすことの楽しさを発見し、積極的に外遊びやスポーツに親しむ習慣や意欲を培っていく必要があります。そのためには、学校と地域が連携し、子どもたちが関心を持って、自発的に身体を動かしたくなる機会の創出や、学校内外のスポーツ活動をする場を充実していくことが重要です。子どもの体力向上やスポーツ活動への参加の促進を図るため、学校活動と連携できる事業について調査・研究をし、スポーツ教室や体験教室等のイベントの開催・充実に努めていきます。

主な取り組み	内 容
小学生向けスポーツの充実	子どもの成長期にスポーツに関心や興味を持ち、スポーツをする習慣を身につけることは、大人になってからの運動習慣を身につける基礎や、スポーツ実施率を高めることにつながると考えます。スポーツ活動への参加の促進を図るため、小学生を対象にしたスポーツ教室や、体験教室等のイベントの開催・充実に努めていきます。
学校体育の充実	日常生活で身体を動かす機会が減り、運動不足による体力低下が懸念されている中、スポーツに親しむ契機となる学校体育の重要性が従来にも増して高まっています。生涯にわたって、運動やスポーツに親しむためには、学校体育の授業を通じて、運動やスポーツを楽しんだり、できる喜びを経験させることが必要です。自分に合った運動やスポーツを発見できるように、学校と連携して学校体育の充実に努めていきます。
学校における運動部活動の支援	運動やスポーツのできる喜びを経験することは、生涯にわたりスポーツに親しむとともに、体力の基礎づくりの観点から極めて重要であると考えます。学校教育の一環として行われる運動部活動は、心と身体の健康に好ましい影響をもたらすだけでなく、成長期に必要な責任感や、チームワークなどの連帯感の基礎を養っていく重要な役割を担っています。学校体育の授業以外の運動や、スポーツに関わる機会を創出することにより、スポーツに関心や興味を持つきっかけや、スポーツを「する」動機付けにつながるように、関係スポーツ団体等と連携して、運動部活動の支援に努めていきます。

#### (4) 障がいのある方のスポーツ活動の充実

スポーツは、全ての方が平等に参加できる権利という理念を踏まえ、スポーツ活動を障がいの有無に関わらず、一体的に展開していくことが望ましいと考えます。障がいのある方がスポーツを行うことにより、心身の健康維持などの身体的効果、さまざまな事柄に積極的になり、自信をつける精神的効果、スポーツをきっかけに地域の人々との交流が深まり、自立と社会参加につながる社会的効果などに大きな効果があげられます。

近年では、障がいのあるアスリートが、国際大会等で活躍し、テレビや新聞などのメディアで取り上げられる機会が多くなりました。このように過去と比べると、障がい者スポーツへの注目度や関心・機運が今までになく高まっており、認知度も大きく向上しています。障がいのある方のスポーツ活動

に対する、市民意識の高揚に努めるとともに、障がいの有無や年齢に関わらず、スポーツ活動やレクリエーション活動に親しめるよう、環境整備やスポーツ活動の支援・充実に努めていきます。

主な取り組み	内 容
ふれあいスポーツ大会の開催	スポーツの楽しさを体験することにより、仲間との交流やコミュニケーションを深める効果が期待できます。障がいのある方にスポーツ活動をする機会を提供し、地域のスポーツ・レクリエーション活動への参加を促進するため、今後も継続して障害福祉課と関係団体等が連携して、ふれあいスポーツ大会を開催していきます。
障がいのある方のスポーツ活動の参加機会の拡大	障がいのある方が自主的かつ、積極的にスポーツ活動を行えるように、障がいの種類や程度に応じて必要な配慮をしつつ、スポーツ意識や環境づくり等の推進に努めていかなければなりません。国や埼玉県で開催する障がい者スポーツ大会等の情報提供を行い、スポーツ・レクリエーション活動に参加して、楽しむ機会の拡大に努めていきます。

#### (5) 高齢者のスポーツ活動の充実

医学の進歩や医療制度の充実、食生活の改善、公衆衛生の向上等による平均寿命の延伸により、人生100年時代といわれる超高齢社会が到来しました。充実した人生100年時代を迎えるためには、人生の最後まで健康で自立した毎日を過ごせることが必要であり、健康寿命をいかに延伸していくかが、今後の重要な課題となっています。また、健康増進や介護予防等、生きがいづくりの観点から、高齢者のスポーツ活動の重要性が高まっています。スポーツを通じた人々の交流により、地域における仲間づくりや生きがいづくりにつながる可能性があり、健康で元気な高齢者が増えることで、医療費や介護給付費等の社会保障費の削減・抑制につながるなど、社会的な問題解決も期待できます。生活習慣病の予防や介護予防を通じて、健康寿命の延伸、認知機能や運動機能などの社会生活機能の維持・向上につなげるため、高齢者のスポーツ活動の充実を目指し、運動習慣づくりの推進を図っていきます。

主な取り組み	内 容
高齢者スポーツ大会の開催	身体を動かすことは、健康増進や生きがいづくり、心の健康につながると考えます。高齢者の運動習慣づくりを推進するため、今後も継続して長寿はつらつ課と関係団体等が連携して、高齢者スポーツ大会を開催していきます。

主な取り組み	内 容
高齢者健康保持・筋力向上トレーニングの開催	超高齢社会、そして人生100年時代に向けて、高齢者人口の増加を踏まえ、健康でいきいきと充実した毎日を過ごせるように、更なる健康寿命の延伸が望まれています。運動・スポーツをすることで、認知症やうつ病などの予防・改善をし、健康維持や介護予防に効果があることが証明されています。加齢に伴う身体機能や、生活機能の低下を予防する取り組み等を行い、自立した生活が送れるように、わくわくどーむ等で、体力や健康状態に応じた、筋力向上につながる運動プログラムを今後も開催していきます。

### (6) 競技スポーツの支援

競技スポーツには、人間の可能性を極限まで追求するという側面があります。競技に打ち込む選手の真剣な姿は、観る方にスポーツへの関心や興味を高めると同時に、夢や希望等たくさんの感動を与えてくれる力があり、生涯スポーツ社会の実現に向けて重要な役割を果たしているといえます。競技選手並びに指導者の育成、競技力の向上を図るため、朝霞市体育協会等の関係団体と連携しながら、競技スポーツの支援・推進を図っていきます。

主な取り組み	内 容
表彰制度の充実	スポーツ活動で優秀な成績を収めた方や、活動をささえてきた方を称えることは、スポーツ活動を行っている方にとって、大きな励みとなり、続けていく意欲を高めることにつながると考えます。本市では、市民体育の振興発展に功績のあった個人及び団体や、各種大会で優秀な成績を収めた市民の方を対象に、市民体育祭で表彰を行っており、今後も市民への表彰制度の周知に努めていきます。

市民体育賞 受賞者人数

表彰名	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
特別賞	—	2人	—	1人	—
体育功労賞	12人	16人	17人	12人	14人
優秀選手賞	116人	67人	62人	110人	74人
地区功労賞	17人	19人	46人	24人	11人

主な取り組み	内 容
市民体育振興奨励補助金の交付	市民の体育及びスポーツ・レクリエーションの振興を図るため、各種目の都道府県大会（中学生・高校生及び大学生については、関東大会等）以上に、予選又は選考を経て大会に出場した市民に対し、参加経費の一部を補助しています。市民スポーツの普及、更なる活躍の奨励、競技力の向上を図るため、今後も支援を継続していきます。

市民体育振興奨励補助金 交付状況

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
件 数	110件	133件	128件	145件	148件
人 数	442人	349人	332人	457人	391人

主な取り組み	内 容
競技スポーツの情報発信	本市出身のアスリートの情報発信を通じて、活躍する姿を観る（「みる」）こと、応援することで、アスリートの力になり、更なる活躍につながることを考えられます。また、併せて、市民のスポーツへの関心や興味が高まり、スポーツ活動への意欲の高揚、親しむきっかけや、「する」動機付けにつながる効果が期待できると考えます。本市出身のアスリートが、出場する大会や試合等の情報発信をして、市民に周知を図っていくとともに、時代に合った効果的な情報発信方法について、調査・研究に努めていきます。

### 3. スポーツ活動の支援

市内には、朝霞市スポーツ推進委員連絡協議会、朝霞市体育協会及び加盟団体等、スポーツ推進に寄与している団体がそれぞれ活動しています。市民のスポーツ活動への関心や、参加の拡大につながるため、関係スポーツ団体等と連携を深め、市民のスポーツ活動の支援・活性化を図っていきます。

#### (1) 団体の育成・支援

市民のスポーツ推進を図っていくためには、スポーツを楽しむ市民を増やしていくことが重要です。市民が気軽に楽しくスポーツに取り組める環境づくりを目指していくためには、行政の力のみで適うものではありません。そのためには、関係スポーツ団体等の協力が必要不可欠であり、その役割は極めて大きいといえます。市民のスポーツ活動の活性化を図っていくうえで、重要なパートナーである

関係スポーツ団体等の、活動意欲の高揚が継続できるように、今後も引き続き、関係スポーツ団体等の育成・支援に努めていきます。

主な取り組み	内 容
体育協会及び加盟団体との連携強化	スポーツ活動は、誰かに言われてやるのではなく、自発的に活動していくことが本来の姿といえます。スポーツの視野を広げて、市民が自発的にスポーツ活動に取り組める環境づくりを目指していくため、朝霞市体育協会及び加盟団体等の支援と連携強化を図って、市民のスポーツ活動の普及と競技力の向上に努めていきます。

#### 朝霞市体育協会及び加盟団体状況

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
加盟団体数	28 団体				
団体人数	16,758 人		16,090 人		15,492 人

主な取り組み	内 容
スポーツ団体への助成	市民のスポーツ・レクリエーション活動の普及振興、体力及び競技力の向上を図っていくうえで、市民の活動をささえる重要なパートナーである、朝霞市体育協会をはじめとした、各加盟団体が行う運営及び事業の経費の一部を助成しています。また、心身の成長過程にある青少年期のスポーツ活動の振興を図るため、次世代を担う青少年を対象としたスポーツ大会や、教室等の事業を実施した加盟団体に対し、今後も引き続き、運営経費の助成を行っていきます。

#### 青少年スポーツ振興補助金 助成状況

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
助成件数	9 件	10 件	10 件	10 件	7 件

主な取り組み	内 容
総合型地域スポーツクラブの検討	<p>総合型地域スポーツクラブとは、身近な地域でスポーツに親しむことができ、子どもから高齢者まで（多世代）、さまざまなスポーツを愛好する方々が（多種目）、初心者から上級者までそれぞれの志向・レベルに合わせて、誰でも参加できる（多志向）という特徴をもつ、地域住民が自主的・主体的に運営する非営利組織のスポーツクラブのことであり、令和2年6月末現在、埼玉県内では、63の市町村のうち76%にあたる、48の市町村に97のクラブが設立されています。まだクラブの設立がされていない本市では、アンケートの集計結果（P41◆問5）より、81.2%と8割の方が、総合型地域スポーツクラブを知らない状況となっています。総合型地域スポーツクラブは、地域住民の身近なスポーツの場となることが期待されている一方で、既にクラブが設立されている市町村では、自主財源の「確保」、会員の「確保」（増員）、指導者の「確保」（養成）、場所の「確保」の4つの「確保」が課題となっています。特に自主性・主体性をささえる重要な要素である、自主財源の「確保」が、大きな課題となっていることから、引き続き調査・研究に努めていきます。</p>

## （2）指導者の育成・支援

生活スタイルの多様化、超高齢社会の到来に伴い、市民の健康づくりや交流の場として、誰でも楽しみながら参加できるスポーツ・レクリエーション活動は重要な役割を果たしています。市民がスポーツ活動を継続していくためには、スポーツ指導者の存在が必要不可欠です。市民のスポーツ活動を支援し、活動を支える身近なパートナーとして、多様化するニーズに対応できる人材が求められていることから、新たなスポーツ指導者を育成していく必要があります。また、市民のスポーツ活動を指導するだけでなく、スポーツの魅力や素晴らしさを伝える等のコーディネーターの役割も担う、質の高いスポーツ指導者の育成・支援に努めていきます。

主な取り組み	内 容
スポーツ推進委員の活用・支援	<p>スポーツ推進委員は、スポーツ推進のための事業実施に係る連絡調整、実技の指導や助言を行う指導者の役割の他に、市民がスポーツ活動を始めるきっかけづくりの最初の1歩を支援する、重要なスポーツコーディネーターとしての役割も担っています。新たなスポーツ推進委員の担い手を発掘するとともに、時代の変化に合わせた指導や、指導者の資質を高めるための各種研修会等を通じて、地域のスポーツ推進をささえる人材育成の活用・支援をしていきます。</p>
スポーツ・レクリエーション指導者育成講習会の開催	<p>生活スタイルの多様化、超高齢社会の到来に伴い、市民の健康づくりや交流の場として、子どもから高齢者まで誰でも楽しみながら参加できる、スポーツ・レクリエーション活動は、重要な役割を果たしています。そのため、各ライフステージの指導方法を習得した、スポーツ指導者の育成が重要であると考えます。市民の多様なスポーツ・レクリエーション活動の機会確保に向けて、スポーツ指導者の育成と資質の向上を図るため、スポーツ指導者としての専門的知識と、技術を習得する機会として、今後も指導者育成講習会を開催していきます。</p>
スポーツリーダーバンクの活用	<p>市民のスポーツ活動へのニーズが多様化するなか、質の高い技術や能力を持った、スポーツ指導者の需要が高まっています。市民やスポーツ団体からの指導者の派遣要請に対して、埼玉県のスポートリーダーバンク制度に登録されている指導者を活用する他、技術や能力を提供する意思のある方を新たに発掘し、市民のニーズに応えられる指導者の確保と人材育成をして、スポーツ活動の活性化を図っていきます。</p>

### (3) スポーツ情報の充実

豊富なスポーツ情報は、スポーツへの関心や興味を高めるとともに、スポーツに参加したり、親しむきっかけにつながります。しかし、いざスポーツを始めようと思った時に、いつ、どこで、どんなスポーツが行われているのか情報がなければ、せっかくのモチベーションが下がってしまいます。情報発信にあたっては、スポーツに関心のある方と、ない方のそれぞれに向けた情報や、市民のニーズに合ったスポーツ情報が必要です。「する」、「みる」、「ささえる」、「つながる」の4つの各要

素に対応したスポーツ情報を、効果的・多角的に提供をすることが重要です。市民がさまざまなスポーツ情報に触れることで、スポーツへの関心や興味を高めスポーツ活動の活性化につながるよう、さまざまな情報媒体を活用して「健康づくり・スポーツ都市」を効果的かつ継続的にPRし、明るく元気なまち「あさか」の魅力を市内外に発信していきます。

主な取り組み	内 容
広報あさかや市ホームページへの掲載	<p>スポーツに関する情報の入手方法(P42◆問7)について、アンケートの集計結果より39.9%と約4割の方が、広報あさかと市ホームページから情報を入手していることから、市の情報媒体が大きな役割を果たしていることがわかります。市民の情報ニーズに応えるため、広報あさかや、市ホームページへの掲載の他、ツイッター・フェイスブック等のSNS媒体も有効活用するなど、スポーツに関心や興味を持ち、スポーツ活動に結びつくような情報の充実に努めていきます。</p>
パンフレット・チラシの充実	<p>市民のスポーツ活動に参加する機会を拡大していくためには、必要なスポーツ情報が、わかりやすく、簡単に入手できることが重要です。情報発信の効率・効果を高めるため、市民の視点を意識した情報編集や、デザインを取り入れたパンフレットやチラシの製作・充実をさせて、情報周知に努めていきます。</p>
メディアを活用した情報発信	<p>行政からの情報は、市民に伝わりにくいという課題を解決するため、情報を必要としている方に、確実に情報が伝わることが重要です。少しでも多くの方に情報が伝わるように、市の情報媒体だけでなく、民間の情報誌やタウン誌、ケーブルテレビ等の各種メディアと連携した、広報展開の導入の検討をしていきます。また、時代に合った多様な情報伝達手段を活用して、効率的・効果的な情報発信に努めていきます。</p>

# 第5章 計画の実現に向けて

スポーツは、地域の絆やコミュニティの形成、生きがい、達成感など多様な生活の充実感をもたらすものとして期待されています。市民が安全な環境の下で、日常的にスポーツを楽しみ、スポーツに親しみ、スポーツに参画する習慣づくりを拡大していくことは、健康増進や健康寿命の延伸につながり、社会的な便益をもたらすものとして、スポーツの価値が高まっています。

## (1) 運動・スポーツを「みる」から「する」へつなげるきっかけの情報提供

働く世代や子育て世代の方が、運動やスポーツをしていない1番の理由（P37◆問1-(7)・P52）として、「仕事や育児等で忙しくて時間がない」が挙げられますが、多忙な日々の中でもテレビやスポーツ施設等で「みる」スポーツ（スポーツ観戦）から、「する」スポーツへつなげるきっかけとなる情報提供をしていくよう努めていきます。また、運動・スポーツを継続「する」ことで、心身の健康保持・増進に大きく貢献し、医療費や介護給付費等の社会保障費の削減・抑制効果が期待できます。社会保障費の削減・抑制効果につなげるため、運動・スポーツを「みる」から「する」へ、行動変容を促すための動機付けや、運動継続性の有効手段として、パンフレットやチラシ等を充実し、普及啓発及び情報提供に努めていきます。

## (2) 東京2020大会後のレガシーの構築

東京2020大会において、本市は射撃競技会場であることから、「健康づくり・スポーツ都市」の「あさか」の地名を日本に限らず、世界に知ってもらい、またとない機会となります。身近な場所で開催されることにより、オリンピック観戦がより身近なものになることから、市民のスポーツへの関心や、スポーツを「する」きっかけが拡大していくための好機ともいえます。世界のトップアスリートの真剣なプレーは、観る者に夢や希望、感動を与える力があります。また、東京2020大会の開催は、真剣なプレーを身近で観戦できる貴重な経験になることから、スポーツの価値が高まり、市民のスポーツ推進の追い風になると予想されています。東京2020大会の開催を契機に、市民とスポーツの感動を共有するとともに、大会後に本市の財産となるレガシーを構築するため、関連スポーツ事業の継承、発展、充実を図って、スポーツ活動の推進につながるよう努めていきます。

## (3) 関係スポーツ団体等との連携・協働

市民のスポーツ環境を充実させるためには、行政の力のみで適うものではなく、朝霞市スポーツ推進委員連絡協議会や、朝霞市体育協会加盟団体の関係スポーツ団体等の参画が必要です。「健康づくり・スポーツ都市」を宣言した際に掲げた4つの目標（P11）と、第1期計画で定めた基本理念の、【誰もが いつでも どこでも楽しめる 生涯スポーツ社会の実現】が達成できるよう、関係スポーツ団体等との連携・協働に取り組んでいくよう努めていきます。

## (4) 庁内関係部署との連携・推進

子ども、障がいのある方、高齢者等のスポーツ活動や、健康づくり等のスポーツ推進に関連する事業を、複数の部署でそれぞれが関係団体等と連携し展開しています。関係部署と関係団体等が幅広く連携・協働をすることで、多様な機会の創出と、運動・スポーツ活動の習慣化を図っていくことが必要です。これらの取り組みを効果的かつ、継続的に展開していくため、関係部署と情報共有を図りながら、各種施策・事業の推進に努めていきます。

## (5) 新しい生活様式に対応したスポーツの推進

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、国の緊急事態宣言の発令により、不要な外出や活動が制限されました。しかし、学校の長期休校による子どもの心身や発育への影響、自粛生活における運動不足等を解消するため、公園や屋外でジョギングやウォーキングをする方、自宅でエクササイズや運動に取り組む方等、健康維持に努める方が多くなりました。アスリートに限らず、一般の方も健康を意識したり、身体を鍛えたりするようになってきており、市民が自ら運動・スポーツ活動に前向きに取り組む行動変化が大きくなりました。このことから、新型コロナウイルス感染症は、運動・スポーツ活動に非常に大きな影響を与え、市民の健康や運動・スポーツ活動の意識を高めたように、大きな転換期を迎えたともいえます。感染者の発生予防、感染拡大防止の観点から、3密（密閉・密集・密接）を避けて活動する必要があることから、今後は、個人スポーツが推奨されることが想定されています。手洗いや消毒、換気などの感染防止対策を講じながら、スポーツの持つポジティブな側面を最大限に活かして、新しい生活様式に対応したスポーツの推進に努めていきます。

本計画を実行性のあるものとして、今後のスポーツ施策を着実に推進していくためには、関係機関や関係団体等との連携・協働による取り組みが必要不可欠となります。これまで取り組んできた第1期計画やスポーツの推進に加えて、人生100年時代の超高齢社会の到来に即した、スポーツを通じた健康増進や健康寿命の延伸、スポーツに関わる方の増加につながる取り組みを、総合的かつ計画的に推進していきます。多様化する市民のニーズを把握するとともに、第5次朝霞市総合計画や、その他の関連計画との整合性を図りながら、本計画の目標の実現に向けて施策の円滑な実施に努めていきます。

# 資料

## スポーツに関するアンケート集計結果

### 1. アンケート調査の目的

新たなスポーツ推進計画を策定するにあたり、市民のスポーツに関する意識や、スポーツ実施率を把握することにより、スポーツの情報を収集し、現在の課題の把握と今後の施策の方向性を見出すための資料とすることを目的に、アンケート調査を実施しました。

### 2. アンケート調査の調査対象及び方法

調査対象	市内に居住する20歳以上の男女
抽出方法	令和元年11月1日現在の住民基本台帳による無作為抽出
対象人数	2,000人
調査期間	令和元年11月16日から12月25日まで
調査方法	郵送による調査を依頼し、無記名回答で調査 (①調査票に記入して返送または②ネットで回答)
回答人数	611人 (①郵送にて返送：527人・②ネットで回答：84人)
回答率	30.6%

注：アンケート集計結果について

(1) 単位：「人数」…「人」・「構成比」…「%」・「増減比較」…「ポイント」

※構成比は、百分率(%)で小数点以下第2位を四捨五入し、小数点第1位までを表記しています。

(2) 複数回答のアンケートにおける構成比は、回答者(対象者)数に占める割合です。

※回答状況により、構成比の合計が100%を超える場合があります。

※このアンケートでの「運動・スポーツ」とは、野球、サッカー、陸上競技等だけではなく、踊りやダンス等のレクリエーション活動、散歩、ウォーキングやストレッチ等レベルや内容に関わらず、気軽にできる運動も含まれます。

(例) 仲間や親子でやるキャッチボールや、電車を利用せずに一駅区間歩いた等

～ 調査対象（年齢・性別） ～

年齢	令和元年度				平成 28 年度			
	男性	女性	計	構成比	男性	女性	計	構成比
20～24 歳	73	80	153	7.7%	25	33	58	5.8%
25～29 歳	75	74	149	7.5%	39	38	77	7.7%
30～34 歳	78	81	159	8.0%	51	47	98	9.8%
35～39 歳	97	91	188	9.4%	59	54	113	11.3%
40～44 歳	99	98	197	9.9%	71	69	140	14.0%
45～49 歳	117	108	225	11.3%	70	73	143	14.3%
50～54 歳	102	101	203	10.2%	53	47	100	10.0%
55～59 歳	88	75	163	8.2%	34	23	57	5.7%
60～64 歳	61	48	109	5.5%	23	19	42	4.2%
65～69 歳	61	59	120	6.0%	32	41	73	7.3%
70～74 歳	64	70	134	6.7%	18	28	46	4.6%
75 歳以上	78	122	200	10.0%	16	37	53	5.3%
合計	993	1,007	2,000	100.4%	491	509	1,000	100.0%
男女比率	49.7%	50.4%	—	—	49.1%	50.9%	—	—

～ あなた御自身について ～

・性別

選択項目	令和元年度		平成 28 年度		増減比較
	人数	構成比	人数	構成比	
男	234	38.3%	116	34.4%	3.9
女	274	44.8%	185	54.9%	-10.1
無回答	103	16.9%	36	10.7%	6.2
合計	611	—	337	—	—

・年齢

選択項目	令和元年度		平成 28 年度		増減比較
	人数	構成比	人数	構成比	
20～24 歳	31	5.1%	8	2.4%	2.7
25～29 歳	29	4.7%	25	7.4%	-2.7
30～34 歳	49	8.0%	30	8.9%	-0.9
35～39 歳	51	8.3%	33	9.8%	-1.5
40～44 歳	50	8.2%	42	12.5%	-4.3
45～49 歳	69	11.3%	46	13.6%	-2.3
50～54 歳	66	10.8%	32	9.5%	1.3
55～59 歳	67	11.0%	22	6.5%	4.5
60～64 歳	38	6.2%	18	5.3%	0.9
65～69 歳	47	7.7%	35	10.4%	-2.7
70～74 歳	55	9.0%	21	6.2%	2.8
75 歳以上	59	9.7%	21	6.2%	3.5
無回答	0	0.0%	4	1.2%	-1.2

・お住まいの地域

選択項目	令和元年度		平成 28 年度		増減比較
	人数	構成比	人数	構成比	
青葉台	2	0.3%	0	0.0%	0.3
朝志ヶ丘	39	6.4%	24	7.1%	-0.7
大字岡	1	0.2%	0	0.0%	0.2
岡	30	4.9%	21	6.2%	-1.3
上内間木	4	0.7%	3	0.9%	-0.2
北原	8	1.3%	8	2.4%	-1.1
幸町	21	3.4%	16	4.7%	-1.3
栄町	49	8.0%	24	7.1%	0.9
下内間木	2	0.3%	2	0.6%	-0.3
泉水	27	4.4%	12	3.6%	0.8
田島	13	2.1%	4	1.2%	0.9
大字台	0	0.0%	0	0.0%	0.0
仲町	20	3.3%	8	2.4%	0.9
西原	13	2.1%	6	1.8%	0.3
西弁財	10	1.6%	8	2.4%	-0.8
大字根岸	0	0.0%	0	0.0%	0.0
根岸台	68	11.1%	36	10.7%	0.4
大字浜崎	0	0.0%	1	0.3%	-0.3
浜崎	15	2.5%	7	2.1%	0.4

選択項目	令和元年度		平成 28 年度		増減比較
	人数	構成比	人数	構成比	
東弁財	14	2.3%	9	2.7%	-0.4
大字膝折	0	0.0%	1	0.3%	-0.3
膝折町	52	8.5%	27	8.0%	0.5
本町	60	9.8%	31	9.2%	0.6
大字溝沼	0	0.0%	1	0.3%	-0.3
溝沼	49	8.0%	19	5.6%	2.4
三原	72	11.8%	39	11.6%	0.2
大字宮戸	1	0.2%	0	0.0%	0.2
宮戸	38	6.2%	26	7.7%	-1.5
その他	2	0.3%	1	0.3%	0.0
無回答	1	0.2%	3	0.9%	-0.7

・職業

選択項目	令和元年度		平成 28 年度		増減比較
	人数	構成比	人数	構成比	
会社員	219	35.8%	112	33.2%	2.6
公務員	43	7.0%	19	5.6%	1.4
会社経営者	4	0.7%	3	0.9%	-0.2
自営業	34	5.6%	18	5.3%	0.3
専業主婦（主夫）	78	12.8%	60	17.8%	-5.0
パート・アルバイト	78	12.8%	59	17.5%	-4.7
学生	25	4.1%	5	1.5%	2.6
無職	82	13.4%	37	11.0%	2.4
その他	14	2.3%	7	2.1%	0.2
無回答	34	5.6%	17	5.0%	0.6

～ 運動やスポーツの実施状況について ～

◆問1 この1年間に運動・スポーツをしましたか？

選択項目	令和元年度		平成 28 年度		増減比較
	人数	構成比	人数	構成比	
① した	444	72.7%	250	74.2%	-1.5
② していない	167	27.3%	84	24.9%	2.4
無回答	0	0.0%	3	0.9%	-0.9

※問1で「① した」と回答された方にお聞きします。

◆問1-(1) どんな運動・スポーツをしましたか？（主な種目を2つまで）

種 目	令和元年度		種 目	平成 28 年度	
	人数	構成比		人数	構成比
ウォーキング	185	41.7%	ウォーキング	93	37.2%
ジョギング・ランニング	60	13.5%	筋トレ・ジム	37	14.8%
ゴルフ	39	8.8%	ジョギング・ランニング	33	13.2%
ストレッチ	37	8.3%	ストレッチ	28	11.2%
ヨガ・ピラティス等	37	8.3%	ヨガ・ピラティス等	21	8.4%
筋トレ・ジム	36	8.1%	ゴルフ	19	7.6%
水泳	32	7.2%	テニス・ソフトテニス	17	6.8%
テニス・ソフトテニス	24	5.4%	水泳	15	6.0%
バドミントン	22	5.0%	バドミントン	12	4.8%
ダンス等	17	3.8%	ダンス等	11	4.4%
サイクリング	17	3.8%	サイクリング	10	4.0%
野球	14	3.2%	野球	9	3.6%
登山	14	3.2%	登山	7	2.8%
マラソン	14	3.2%	ラジオ体操	7	2.8%
卓球	13	2.9%	ボウリング	7	2.8%
サッカー	13	2.9%	スキー・スノーボード	6	2.4%
スキー・スノーボード	12	2.7%	エアロビクス等	6	2.4%
バレーボール・ソフトバレー	11	2.5%	バスケットボール	6	2.4%
バスケットボール	10	2.3%	バレーボール・ソフトバレー	6	2.4%
軽い体操	9	2.0%	卓球	5	2.0%
ソフトボール	7	1.6%	サッカー	5	2.0%
ボウリング	7	1.6%	マラソン	4	1.6%
エアロビクス等	6	1.4%	ソフトボール	4	1.6%
ボルダリング	5	1.1%	フットサル	3	1.2%
ラジオ体操	5	1.1%	ハイキング	3	1.2%
フットサル	5	1.1%	太極拳	3	1.2%
ハイキング	4	0.9%	空手・合気道・テコンドー	2	0.8%
太極拳	4	0.9%	ボルダリング	2	0.8%
ウエイトトレーニング	3	0.7%	軽い体操	2	0.8%
空手・合気道・テコンドー	3	0.7%	その他	42	16.8%
バランスボール	3	0.7%			
トレッキング	3	0.7%			
畑仕事	3	0.7%			
その他	58	13.1%			

- ・その他（一部抜粋）：釣り、プール歩行、キャッチボール、弓道、ノルディックウォーク、キックボクシング、縄跳び、フィットネス、有酸素運動、剣道、居合、ラクロス、スパルタンレース、バレエ、電動ウォーカー等

◆問1-(2) 運動・スポーツをする理由は何ですか？（主な理由を3つまで）

選択項目	令和元年度		平成28年度		増減比較
	人数	構成比	人数	構成比	
① 健康・体力づくりのため	334	75.2%	180	72.0%	3.2
② スポーツを楽しむため	134	30.2%	82	32.8%	-2.6
③ 運動不足を解消するため	261	58.8%	115	46.0%	12.8
④ 精神修養や鍛錬のため	17	3.8%	13	5.2%	-1.4
⑤ 大会に出場するため	16	3.6%	17	6.8%	-3.2
⑥ 友人・仲間との交流のため	83	18.7%	52	20.8%	-2.1
⑦ 地域の人たちとの交流のため	14	3.2%	13	5.2%	-2.0
⑧ 家族とのふれあいのため	56	12.6%	29	11.6%	1.0
⑨ 美容・ダイエットのため	88	19.8%	54	21.6%	-1.8
⑩ 生きがいのため	27	6.1%	19	7.6%	-1.5
⑪ ストレス解消のため	86	19.4%	70	28.0%	-8.6
⑫ 記録や技能の向上のため	10	2.3%	6	2.4%	-0.1
⑬ その他	15	3.4%	13	5.2%	-1.8

⑬その他（抜粋）

- ・子どもと遊ぶため、ゲームのため(4)
- ・仕事・会社の付き合いのため(2)
- ・する事もないから
- ・ペットの健康のため
- ・猫背、腰の曲がりの予防のため
- ・健康維持のため
- ・病気をしたのでリハビリのため
- ・家にいると食べてしまうから
- ・将来自分の足で行動できるため
- ・サッカー指導のため
- ・体のこりをほぐすため

◆問1-(3) どの程度運動・スポーツをしていますか？

選択項目	令和元年度		平成28年度		増減比較
	人数	構成比	人数	構成比	
① 週に3回以上	130	29.3%	80	31.9%	-2.6
② 週に1～2回	166	37.4%	82	32.7%	4.7
③ 月に1～3回	102	23.0%	61	24.3%	-1.3
④ 年に数回程度	40	9.0%	23	9.2%	-0.2
無回答	6	1.4%	5	2.0%	-0.6
*週1回以上のスポーツ実施率	48.4%		48.1%		0.3

\*週1回以上のスポーツ実施率は、全体の回答者（令和元年度：611人・平成28年度：337人）のうち、選択項目の①と②の合計を割合で示したものの。

◆問1-(4) 運動・スポーツを1回に行う時間はどの程度ですか？

選択項目	令和元年度		平成28年度		増減比較
	人数	構成比	人数	構成比	
① 15分未満	10	2.3%	5	2.0%	0.3
② 15分以上30分未満	62	14.0%	32	12.7%	1.3
③ 30分以上1時間未満	128	28.8%	86	34.3%	-5.5
④ 1時間以上2時間未満	157	35.4%	82	32.7%	2.7
⑤ 2時間以上	83	18.7%	40	15.9%	2.8
無回答	4	0.9%	6	2.4%	-1.5

◆問1-(5) あなたの運動・スポーツの実施状況（頻度）についてどう思いますか？

選択項目	令和元年度		平成28年度		増減比較
	人数	構成比	人数	構成比	
① 充分である	129	29.1%	66	26.3%	2.8
② 不足している	268	60.4%	153	61.0%	-0.6
③ わからない	40	9.0%	27	10.8%	-1.8
無回答	7	1.6%	5	2.0%	-0.4

◆問1-(6) 運動・スポーツをした結果、健康面での効果・変化はありましたか？

選択項目	令和元年度		平成28年度		増減比較
	人数	構成比	人数	構成比	
① 効果・変化があった	113	25.5%	80	31.9%	-6.4
② ある程度効果・変化があった	199	44.8%	116	46.2%	-1.4
③ 特に効果・変化はなかった	128	28.8%	50	19.9%	8.9
無回答	4	0.9%	5	2.0%	-1.1

※効果とは風邪をひかなくなった、病院へ行かなくなった等を意味します。

※問1で「② していない」と回答された方にお聞きします。

◆問1-(7) あなたが運動・スポーツをしていない理由は何ですか？（主な理由を3つまで）

選択項目	令和元年度		平成28年度		増減比較
	人数	構成比	人数	構成比	
① 仕事、家事、育児、勉強などで忙しくて時間がないから	82	49.1%	40	47.6%	1.5
② 身近に運動をする場所がないから	10	6.0%	7	8.3%	-2.3
③ 指導者がいないから	3	1.8%	4	4.8%	-3.0
④ 一緒に運動する仲間がないから	19	11.4%	11	13.1%	-1.7
⑤ お金がかかるから	27	16.2%	15	17.9%	-1.7
⑥ 運動が好きではない・興味がないから	29	17.4%	10	11.9%	5.5
⑦ やりたい種目のクラブやサークルがないから	8	4.8%	5	6.0%	-1.2
⑧ 運動よりも他のことに興味があるから	34	20.4%	13	15.5%	4.9
⑨ ケガや病気のため	22	13.2%	9	10.7%	2.5
⑩ 年をとったから	28	16.8%	8	9.5%	7.3
⑪ 運動するのが面倒、苦手だから	35	21.0%	14	16.7%	4.3
⑫ 人間関係がわずらわしいから	6	3.6%	8	9.5%	-5.9
⑬ 特に理由はない	20	12.0%	12	14.3%	-2.3
⑭ その他	9	5.4%	6	7.1%	-1.7
無回答	6	3.6%	6	7.1%	-3.5

⑭ その他（抜粋）

- ・犬の散歩があるから
- ・機会と時間が合わないから
- ・自分で腰痛体操程度を行っているため
- ・音楽活動をしているため時間が取れないから
- ・男の人と一緒にだと見られることに抵抗があるから
- ・妊娠していたから
- ・親の介護で忙しいから
- ・仕事だけで十分
- ・疲れるから

◆問1-(8) 今後条件がそろえば運動・スポーツをしたいですか？

選択項目	令和元年度		平成28年度		増減比較
	人数	構成比	人数	構成比	
① してみたい	90	53.9%	47	54.7%	-0.8
② したくない	14	8.4%	6	7.0%	1.4
③ どちらともいえない	59	35.3%	25	29.1%	6.2
無回答	4	2.4%	8	9.3%	-6.9

◆問1-(9) 試合や競技大会等のスポーツ観戦（テレビでの観戦含む）をどの程度していますか？

選択項目	令和元年度		平成28年度		増減比較
	人数	構成比	人数	構成比	
① 週に1～2回程度	157	25.7%	60	17.8%	7.9
② 月に1～3回	193	31.6%	80	23.7%	7.9
③ 年に数回程度	122	20.0%	49	14.5%	5.5
④ ほとんど観戦しない	97	15.9%	67	19.9%	-4.0
無回答	42	6.9%	81	24.0%	-17.1

～ 今後の運動・スポーツについて ～

◆問2 今後やってみたい運動・スポーツは何ですか？（主な種目を2つまで）

種目	令和元年度		種目	平成28年度	
	人数	構成比		人数	構成比
水泳	56	9.2%	ヨガ・ピラティス等	44	13.1%
テニス・ソフトテニス	53	8.7%	テニス	42	12.5%
ヨガ・ピラティス等	53	8.7%	水泳等	36	10.7%
ウォーキング	43	7.0%	ウォーキング	31	9.2%
ジョギング・ランニング	38	6.2%	ボルダリング	18	5.3%
筋トレ・ジム	32	5.2%	ゴルフ	16	4.7%
卓球	30	4.9%	卓球	14	4.2%
バドミントン	29	4.7%	ダンス等	13	3.9%
ゴルフ	25	4.1%	マラソン	12	3.6%
ダンス等	24	3.9%	バドミントン	12	3.6%
ストレッチ	22	3.6%	野球	12	3.6%
野球	22	3.6%	ジョギング・ランニング	11	3.3%
バスケットボール	20	3.3%	筋トレ・ジム	10	3.0%
ボルダリング	20	3.3%	ストレッチ	8	2.4%
登山	18	2.9%	ソフトボール	7	2.1%
バレーボール・ソフトバレー	18	2.9%	マリンスポーツ	7	2.1%
マラソン	18	2.9%	バレーボール	6	1.8%
フットサル	14	2.3%	弓道	6	1.8%
サイクリング	13	2.1%	サイクリング	6	1.8%
サッカー	13	2.1%	登山	5	1.5%
アーチェリー	10	1.6%	バスケットボール	5	1.5%
空手・合気道・テコンドー	10	1.6%	サッカー	4	1.2%
スキー・スノーボード	10	1.6%	スキー・スノーボード	4	1.2%
ボウリング	8	1.3%	太極拳	3	0.9%
エアロビクス等	7	1.1%	アーチェリー	3	0.9%

種 目	令和元年度		種 目	平成 28 年度	
	人数	構成比		人数	構成比
弓道	6	1.0%	エアロピクス	3	0.9%
太極拳	6	1.0%	ハイキング	2	0.6%
マリンスポーツ	6	1.0%	スケート	2	0.6%
ハイキング	5	0.8%	フットサル	1	0.3%
ラグビー	5	0.8%	スカッシュ	1	0.3%
乗馬	4	0.7%	体操	1	0.3%
スケート	4	0.7%	空手	1	0.3%
グラウンドゴルフ	3	0.5%	ゲートボール	1	0.3%
剣道	3	0.5%	剣道	1	0.3%
スキューバーダイビング	3	0.5%	乗馬	1	0.3%
ソフトボール	3	0.5%	釣り	1	0.3%
体操	3	0.5%	骨盤体操	1	0.3%
テニス	3	0.5%	その他	52	15.4%
トランポリン	3	0.5%			
その他	64	10.5%			

・その他（一部抜粋）：エクササイズ、ロッククライミング、射撃、柔道、タグラグビー、アクアピクス、釣り、スカッシュ、アスレチック、アドベンチャーレース、スポーツバイク、トライアスロン、トレッキング等

◆問3 月平均どのくらいの経費（道具やウェア等の購入費・クラブ会費・施設使用料等を含む）であれば運動・スポーツに参加しますか？

選択項目	令和元年度		平成 28 年度		増減比較
	人数	構成比	人数	構成比	
① 1,000 円未満	127	20.8%	55	16.3%	4.5
② 1,000 円以上 3,000 円未満	183	30.0%	125	37.1%	-7.1
③ 3,000 円以上 5,000 円未満	127	20.8%	77	22.8%	-2.0
④ 5,000 円以上 10,000 円未満	81	13.3%	46	13.6%	-0.3
⑤ 10,000 円以上	34	5.6%	11	3.3%	2.3
無回答	59	9.7%	23	6.8%	2.9

### ～ スポーツに関するボランティア活動について ～

◆問4 この1年間にスポーツに関するボランティア活動を行ったことがありますか？

選択項目	令和元年度		平成 28 年度		増減比較
	人数	構成比	人数	構成比	
① ある	39	6.4%	28	8.3%	-1.9
② ない	568	93.0%	300	89.0%	4.0
無回答	4	0.7%	9	2.7%	-2.0

※問4で「① ある」と回答された方にお聞きします。

◆問4-(1) どのような経緯で行いましたか？(あてはまるものをすべて)

選択項目	令和元年度		平成28年度		増減比較
	人数	構成比	人数	構成比	
① 自主的に行った	11	28.2%	9	32.1%	-3.9
② 頼まれて行った	28	71.8%	18	64.3%	7.5
1. 友人や知人	6	21.4%	1	5.6%	15.8
2. 町内会や職場のグループ	0	0.0%	1	5.6%	-5.6
3. スポーツ関係の団体や連盟	17	60.7%	8	44.4%	16.3
4. 子どもが所属しているクラブ	8	28.6%	10	55.6%	-27.0
③ その他	4	10.3%	4	14.3%	-4.0
無回答	7	17.9%	4	14.3%	3.6

③ その他(抜粋)

- ・オリンピック都市ボランティアの実践
- ・障がい者のスポーツ会の折に頼まれて
- ・会社で行っているから
- ・同期に頼まれて

◆問4-(2) それはどのような活動ですか？(あてはまるものをすべて)

選択項目	令和元年度		平成28年度		増減比較
	人数	構成比	人数	構成比	
① スポーツの指導・コーチ	12	30.8%	6	21.4%	9.4
② スポーツ行事・スポーツ大会・イベント等の手伝い	18	46.2%	17	60.7%	-14.5
③ スポーツの審判・競技役員	10	25.6%	3	10.7%	14.9
④ スポーツクラブ・スポーツ団体等の運営・活動の手伝い	12	30.8%	10	35.7%	-4.9
⑤ その他	3	7.7%	1	3.6%	4.1
無回答	9	23.1%	9	32.1%	-9.0

⑤ その他(抜粋)

- ・一緒に体操をする
- ・スコア記入
- ・自宅マンション内でのヨガ教室の企画・運営・連絡係等

※問4で「② ない」と回答された方にお聞きします。

◆問4-(3) 機会があれば、スポーツに関するボランティア活動を行いたいと思いますか？

選択項目	令和元年度		平成28年度		増減比較
	人数	構成比	人数	構成比	
① 是非行いたい	27	4.7%	12	3.9%	0.8
② できれば行いたい	101	17.7%	61	19.8%	-2.1
③ あまり行いたくない	174	30.4%	96	31.2%	-0.8
④ 全く行いたくない	111	19.4%	33	10.7%	8.7
⑤ わからない	145	25.3%	95	30.8%	-5.5
無回答	14	2.4%	11	3.6%	-1.2

～ 地域のスポーツ振興について ～

◆問5 総合型地域スポーツクラブを知っていますか？

選択項目	令和元年度		平成 28 年度		増減比較
	人数	構成比	人数	構成比	
① 知っている	100	16.4%	41	12.2%	4.2
② 知らない	496	81.2%	277	82.2%	-1.0
無回答	15	2.5%	19	5.6%	-3.1

◆問5-（1）総合型地域スポーツクラブに加入したいと思いますか？

選択項目	令和元年度		平成 28 年度		増減比較
	人数	構成比	人数	構成比	
① 加入したい	107	17.5%	68	20.2%	-2.7
② 加入したくない	133	21.8%	54	16.0%	5.8
③ どちらでもない	354	57.9%	195	57.9%	0.0
無回答	17	2.8%	20	5.9%	-3.1

◆問6 地域スポーツ推進を図るために活動している「スポーツ推進委員」（旧：体育指導委員）を知っていますか？

選択項目	令和元年度		平成 28 年度		増減比較
	人数	構成比	人数	構成比	
① 知っている	44	7.2%	21	6.2%	1.0
② 名前を聞いたことがある	96	15.7%	37	11.0%	4.7
③ 知らない	460	75.3%	263	78.0%	-2.7
無回答	11	1.8%	16	4.7%	-2.9

◆問6-（1）運動やスポーツを推進するために「スポーツ推進委員」をはじめ、どのようなスポーツ指導者が必要だと思いますか？（あてはまるものをすべて）

選択項目	令和元年度		平成 28 年度		増減比較
	人数	構成比	人数	構成比	
① 健康・体力づくりのための指導ができる人	372	60.9%	179	53.1%	7.8
② 競技力向上のための技術指導ができる人	159	26.0%	67	19.9%	6.1
③ 体を動かす楽しみ方やスポーツへの関心・興味わくような指導ができる人	409	66.9%	216	64.1%	2.8
④ 高齢者のスポーツ指導ができる人	242	39.6%	114	33.8%	5.8
⑤ 青少年のスポーツ指導ができる人	124	20.3%	66	19.6%	0.7
⑥ 障がい者のスポーツ指導ができる人	134	21.9%	50	14.8%	7.1
⑦ スポーツ教室などイベントの企画・運営ができる人	211	34.5%	106	31.5%	3.0
⑧ その他	14	2.3%	9	2.7%	-0.4

⑧ その他（抜粋）

- ・指導者全般
- ・自分で考える人
- ・若い世代向けの指導者
- ・病後の回復の為に指導者
- ・運動音痴に配慮して指導できる人
- ・安全にスポーツができるように指導ができる人
- ・平日休みのサラリーマンのために平日夜のイベントや指導ができる人
- ・グローバル性を持つ同種スポーツマンや組織と交流・交歓出来る指導者
- ・中学の部活顧問がそのスポーツの知識、経験がないことが有り、そのサポートをするコーチ
- ・ケガ・急病等安全面も考慮できる人
- ・女性による女性のためのスポーツ指導ができる人
- ・モチベーションの維持・向上の対策が出来る人
- ・家に引きこもりの人も誘える感心な人
- ・高齢者、障がい者等を幅広くサポートできる人

～ スポーツに関する情報について ～

◆問7 あなたは、スポーツに関する情報をどのように入手していますか？（3つまで）

選択項目	令和元年度		平成 28 年度		増減比較
	人数	構成比	人数	構成比	
① 広報あさか	220	36.0%	135	40.1%	-4.1
② 市ホームページ	24	3.9%	20	5.9%	-2.0
③ インターネット	254	41.6%	111	32.9%	8.7
④ ポスター・チラシ	76	12.4%	50	14.8%	-2.4
⑤ 新聞・雑誌・テレビ	188	30.8%	90	26.7%	4.1
⑥ 友人や知人	143	23.4%	61	18.1%	5.3
⑦ 所属クラブ・団体等を通じて	36	5.9%	21	6.2%	-0.3
⑧ 主催団体への問い合わせ	2	0.3%	4	1.2%	-0.9
⑨ その他	7	1.1%	6	1.8%	-0.7
⑩ 特に入手していない	130	21.3%	79	23.4%	-2.1

⑨ その他（抜粋）

- ・学校からの手紙やチラシ(2)
- ・職場(2)
- ・ガイドブック
- ・公民館などの掲示板
- ・SNS

◆問8 スポーツに関する情報で不足していると思われる情報は何か？（3つまで）

選択項目	令和元年度		平成28年度		増減比較
	人数	構成比	人数	構成比	
① スポーツができる場所や施設の情報	326	53.4%	163	48.4%	5.0
② スポーツ行事・大会やイベントの情報	148	24.2%	79	23.4%	0.8
③ スポーツクラブや同好会等の情報	195	31.9%	93	27.6%	4.3
④ スポーツ用具や道具についての情報	73	11.9%	41	12.2%	-0.3
⑤ スポーツ指導者についての情報	75	12.3%	19	5.6%	6.7
⑥ 健康・スポーツ相談についての情報	109	17.8%	59	17.5%	0.3
⑦ その他	14	2.3%	13	3.9%	-1.6
⑧ 特になし（不足している情報はない）	150	24.5%	68	20.2%	4.3

⑦ その他(抜粋)

- ・ 雰囲気わかる写真での情報(2)
- ・ サウナの有無情報
- ・ 平日または平日夜のイベント情報
- ・ ダイエット情報
- ・ 病気とスポーツの情報
- ・ 傷害保険加入情報
- ・ リハビリ情報
- ・ 効果的な鍛え方
- ・ 高齢者の要介護予防関係の情報
- ・ 興味がない
- ・ スポーツ習慣と健康寿命に関する情報。スポーツを日常的にすることによって得られるメリット。
- ・ 情報を得ようとする機会が少ないため、過不足についてはよく分からない。
- ・ スポーツに関する情報へアクセスするためのポータル的なメディア（web サイト等）があると良いと思いました。

～ スポーツ施設について ～

◆問9 普段どのような場所で運動やスポーツを行っていますか？（あてはまるものをすべて）

選択項目	令和元年度		平成28年度		増減比較
	人数	構成比	人数	構成比	
① 公共のスポーツ施設	180	29.5%	92	27.3%	2.2
② 民間のスポーツ施設	124	20.3%	64	19.0%	1.3
③ 学校体育施設（小・中学校）	42	6.9%	19	5.6%	1.3
④ 高校・大学の施設	11	1.8%	5	1.5%	0.3
⑤ 職場のスポーツ施設	11	1.8%	12	3.6%	-1.8
⑥ 民間会員制スポーツクラブの施設	49	8.0%	26	7.7%	0.3
⑦ 公園・広場	170	27.8%	72	21.4%	6.4
⑧ 自宅	158	25.9%	70	20.8%	5.1
⑨ 野外（山、川、海、土手等）	154	25.2%	102	30.3%	-5.1
⑩ その他	31	5.1%	32	9.5%	-4.4
無回答	67	11.0%	38	11.3%	-0.3

⑩ その他(抜粋)

- 道路や遊歩道(22)
- 運動やスポーツはしない(2)
- 市民センター
- 公民館
- ゴルフ場や河川敷
- 鏡のある場所
- 介護施設
- 個人の道場
- マンション(自宅)の集会室など

◆問10 朝霞市の公共スポーツ施設を利用したことがありますか？

選択項目	令和元年度		平成28年度		増減比較
	人数	構成比	人数	構成比	
① 利用したことがある	322	52.7%	187	55.5%	-2.8
② 利用したことはない	280	45.8%	130	38.6%	7.2
無回答	9	1.5%	20	5.9%	-4.4

※問10で「① 利用したことがある」と回答された方にお聞きします。

◆問10-(1) どの施設を利用しましたか？(利用したことのある施設をすべて)

選択項目	令和元年度		平成28年度		増減比較
	人数	構成比	人数	構成比	
① 総合体育館	147	45.7%	84	44.9%	0.8
② 武道館	12	3.7%	5	2.7%	1.0
③ 滝の根テニスコート	14	4.3%	10	5.3%	-1.0
④ 中央公園野球場	14	4.3%	13	7.0%	-2.7
⑤ 中央公園陸上競技場	60	18.6%	38	20.3%	-1.7
⑥ 青葉台公園テニスコート	36	11.2%	26	13.9%	-2.7
⑦ 青葉台公園芝生広場	34	10.6%	20	10.7%	-0.1
⑧ 北朝霞公園野球場	20	6.2%	13	7.0%	-0.8
⑨ 弁財公園テニスコート	13	4.0%	9	4.8%	-0.8
⑩ 内間木公園ソフトボール場	10	3.1%	5	2.7%	0.4
⑪ 内間木公園テニスコート	15	4.7%	6	3.2%	1.5
⑫ 内間木公園弓道場	3	0.9%	2	1.1%	-0.2
⑬ 上野荒川運動公園野球場	6	1.9%	5	2.7%	-0.8
⑭ 上野荒川運動公園サッカー場	8	2.5%	9	4.8%	-2.3
⑮ わくわくどーむ	215	66.8%	135	72.2%	-5.4
⑯ その他	12	3.7%	5	2.7%	1.0
無回答	10	3.1%	20	10.7%	-7.6

⑩ その他(抜粋)

- 公民館(6)
- 城山公園(2)
- はあとぴあ(2)
- ゆめばれす
- 城山公園壁打ちコート

◆問10-(2) 利用した施設の使用料についてどう思いますか？

選択項目	令和元年度		平成28年度		増減比較
	人数	構成比	人数	構成比	
① 適当である	246	74.3%	130	62.5%	11.8
② 高い	19	5.7%	22	10.6%	-4.9
③ 安い	47	14.2%	28	13.5%	0.7
無回答	19	5.7%	28	13.5%	-7.8

◆問11 朝霞市の公共スポーツ施設についてどう思いますか？

選択項目	令和元年度		平成28年度		増減比較
	人数	構成比	人数	構成比	
① 充実である	105	17.2%	66	19.6%	-2.4
② 不足している	109	17.8%	62	18.4%	-0.6
③ わからない	356	58.3%	155	46.0%	12.3
無回答	41	6.7%	54	16.0%	-9.3

※問11で「② 不足している」と回答された方にお聞きします。

◆問11-(1) どのような施設が不足していると思いますか？

- ・体育館(11)
- ・屋外プール・屋内プール(10)
- ・無回答(10)
- ・テニスコート(7)
- ・バスケットコート(6)
- ・トレーニングジム(4)
- ・サッカー場(3)
- ・登録等しないで個人が自由に利用できる場所(3)
- ・わくわくドームのような仕事帰りに立ち寄れる施設(2)
- ・気軽に体を動かせる施設(2)
- ・テニスの壁打ちコート(2)
- ・野球場(2)
- ・ボルダリング(2)
- ・バドミントンコート(2)
- ・民営のスポーツクラブのようなもの(2)
- ・公園のような空間(2)
- ・施設全体数が少ない
- ・ゴルフ練習場
- ・空調が整っている施設
- ・ボール遊びができる場所
- ・女性のみ使用可能なプール
- ・フィットネス
- ・多目的広場
- ・アスレチック
- ・健康ランド
- ・特殊な施設
- ・ウォーキングロード
- ・女性専用の施設
- ・トランポリン
- ・室内施設
- ・マシニングジムのような施設
- ・ランニングコース
- ・軽易に走れる場所
- ・人工芝グラウンド
- ・スパ
- ・運動広場
- ・地域に開設された運動施設
- ・ラクロスができるグラウンド
- ・フットサル場
- ・散歩やジョギングができる公園
- ・ボールが使える公園
- ・ダンスやボルダリングを親子でできる施設

- ・人工芝のテニスコート
- ・気軽にに行ける明るい雰囲気施設の施設
- ・男女別のトレーニングルーム
- ・市民センターの鏡張りの部屋
- ・若い世代向けイベントを平日夜や休日に行う施設
- ・100円～200円の回数券でジムやプールなどを安く利用できる施設
- ・バドミントンや卓球等いつでも自由に個人が使えるような施設
- ・自転車競技(ストライダーやBMX等)の練習が思いっきりできる場所
- ・青葉台公園テニスコートのコート数
- ・屋内屋外共に気軽に利用できる運動施設
- ・抽選なしで利用できるゴルフのショートコース
- ・高齢の方が気軽に利用できる施設
- ・走ったりトレーニングしたり球技などができる場所

～ 朝霞市のスポーツ施策について ～

◆問12 朝霞市では、「市民体育祭」を始め「ロードレース大会」「市民スポーツ教室」等のイベントを実施していますが、参加したことはありますか？

選択項目	令和元年度		平成28年度		増減比較
	人数	構成比	人数	構成比	
① 参加したことがある	99	16.2%	62	18.4%	-2.2
② 参加したことはない	504	82.5%	268	79.5%	3.0
無回答	8	1.3%	7	2.1%	-0.8

※問12で「① 参加したことがある」と回答された方にお聞きします。

◆問12-1) 参加してみてどうでしたか？

選択項目	令和元年度		平成28年度		増減比較
	人数	構成比	人数	構成比	
① 楽しかった(満足だった)	47	43.9%	36	52.2%	-8.3
② 普通だった	42	39.3%	22	31.9%	7.4
③ どちらでもない	10	9.3%	4	5.8%	3.5
無回答	8	7.5%	7	10.1%	-2.6

※問12で「② 参加したことはない」と回答された方にお聞きします。

◆問12-2) 参加しなかった理由は何ですか？(あてはまるものをすべて)

選択項目	令和元年度		平成28年度		増減比較
	人数	構成比	人数	構成比	
① 開催情報がないから	120	23.8%	64	23.9%	-0.1
② 内容を知らないから	215	42.7%	108	40.3%	2.4
③ イベントに魅力を感じないから	117	23.2%	103	38.4%	-15.2
④ 日程が合わないから	134	26.6%	26	9.7%	16.9
⑤ その他	85	16.9%	41	15.3%	1.6
無回答	35	6.9%	22	8.2%	-1.3

⑤ その他(抜粋)

- 体力的に無理だから(10)
- 運動に興味がないから(6)
- 1人だと参加しづらい(5)
- 仕事が忙しいから(4)
- 高齢だから(3)
- 年齢的に無理(3)
- 参加する意志がない(3)
- 子供がいて預け先がなく参加できないから(3)
- 病気だから(2)
- 参加する機会がないから(2)
- 交通の便が悪く、遠くて行けないから(2)
- 運動が苦手だから(2)
- 参加したいと思わないから(2)
- 存在を知らなかったから(2)
- 足が不自由だから
- 参加するのは厳しいから
- ガラの悪そうな人が多い印象があるから
- 小人数でやりたいから
- 回覧をあまり読まないから
- 友人と行っているから
- 自分自身の年齢を考慮して
- 参加に意欲的ではないから
- 一緒に参加する人がいない
- 体調が合わないから
- 仕事をしているため休日は他の用事に充ててしまうから
- 1度も参加したことがないので楽しさや良さがわからない
- 朝霞台周辺は場所も情報も朝霞ほど届いていないから
- 運動に自信がないから
- 誘われなかったから
- 高齢者向きとは思えない
- 何となく億劫だから
- 転居してきて日が浅いためなじみが薄いから
- レベルが低いから
- 関心が薄いから
- やる気がないから
- 視力が弱いから
- 高齢者のイベントがないから
- 町内会で牛耳っていて入りにくい
- 内部障がいがあり参加できない
- 自分が普段行うスポーツではないから
- ひざを痛めているから
- 病気治療中のため
- 足の障がいがあるから
- 個人で行動するのが好きだから
- 集団で行動するのが苦手
- 時間がないから
- 自分で調べようと思ったことがないから
- 好きな時間にするのが良いから
- 走るのが嫌いだから
- 人が煩わしいから

◆問13 朝霞市ではスポーツ推進を図るため、さまざまな事業を実施していますが、今後どのようなことに取り組んでいくべきとお考えですか？（あてはまるものをすべて）

選択項目	令和元年度		平成28年度		増減比較
	人数	構成比	人数	構成比	
① 初心者向けのスポーツ教室の充実	243	39.8%	115	34.1%	5.7
② 中学校の運動部活動の充実	60	9.8%	58	17.2%	-7.4
③ 中高年者のスポーツ活動の充実	257	42.1%	116	34.4%	7.7
④ 障がい者のスポーツ活動の充実	78	12.8%	35	10.4%	2.4
⑤ 親子スポーツ事業の推進	95	15.5%	56	16.6%	-1.1
⑥ 観戦するスポーツの推進	118	19.3%	54	16.0%	3.3
⑦ 競技力の向上	43	7.0%	18	5.3%	1.7
⑧ 各種スポーツ大会やイベントの開催	104	17.0%	50	14.8%	2.2
⑨ 補助金制度の充実	80	13.1%	38	11.3%	1.8
⑩ 指導者の育成・活用・支援	100	16.4%	50	14.8%	1.6
⑪ スポーツ情報の充実	142	23.2%	70	20.8%	2.4
⑫ スポーツ施設の整備・充実	215	35.2%	100	29.7%	5.5
⑬ その他	19	3.1%	8	2.4%	0.7

⑬ その他(抜粋)

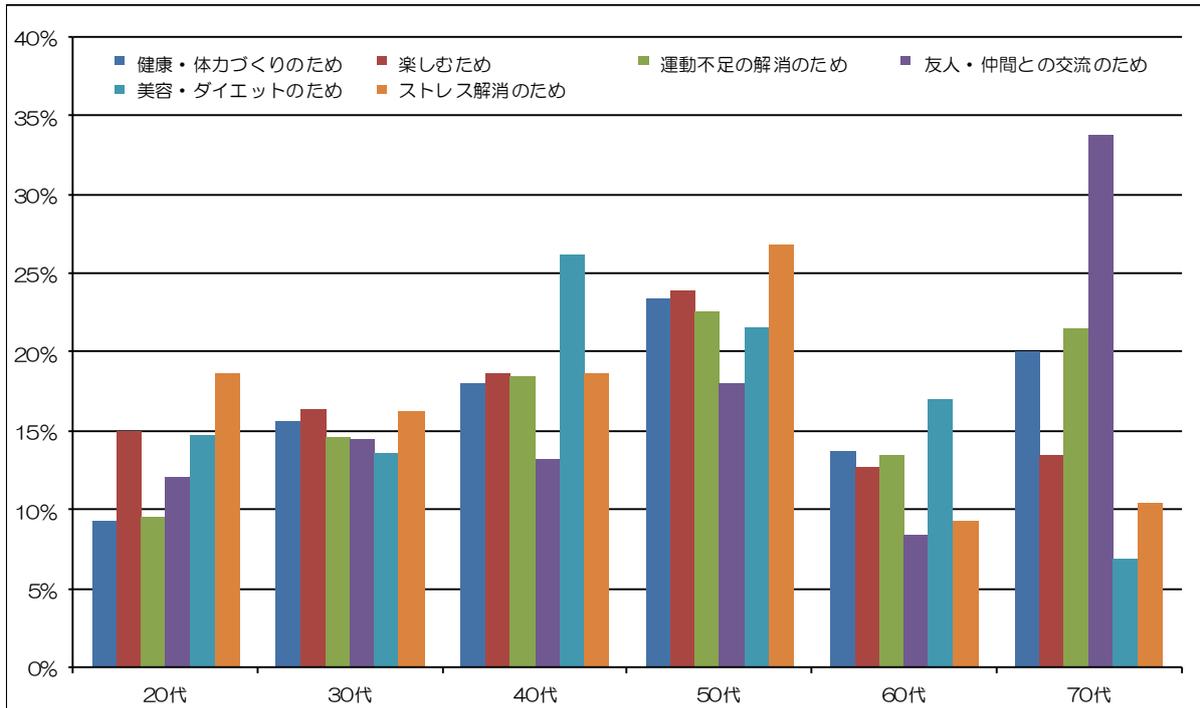
- ・ 広報
- ・ 乳幼児がいても行けるジムなどの情報
- ・ 弓道等のマイナー競技の大会・イベント等の充実
- ・ 夏休み等の子供向け講座を充実させてほしい
- ・ 老化防止イベント（ピラティス・ヨガ・ストレッチ）
- ・ 病氣治療後の回復運動
- ・ 子供向けのスポーツ教室の充実
- ・ 健康維持に役立つこと、高齢者の健康情報の充実
- ・ 子育て世代がもっと参加できるスポーツイベント情報
- ・ 野外対象のスポーツ情報
- ・ 各小中学校開放施設の用具、設備と環境
- ・ 子供でも気軽にできるような場所
- ・ 高齢者の寝たきりにならないための予防的な運動
- ・ 平日のイベントや夜のイベント
- ・ 気軽に出来て体を動かすことが楽しいと思える取り組み
- ・ 公道を整備して欲しい
- ・ 乳幼児がいても安心して参加できる施設やキッズスペースの充実
- ・ 会社員など、働く世代が参加できる日時設定で、自宅から通いやすいもの
- ・ どの層に訴求するかにより取り組みは異なると考えますが、スポーツ推進の具体的なゴール・目標などを並行して考えれば取り組みも絞られてくるのではないかと思います。

◆問14 あなたは、朝霞市のスポーツ施策について満足していますか？

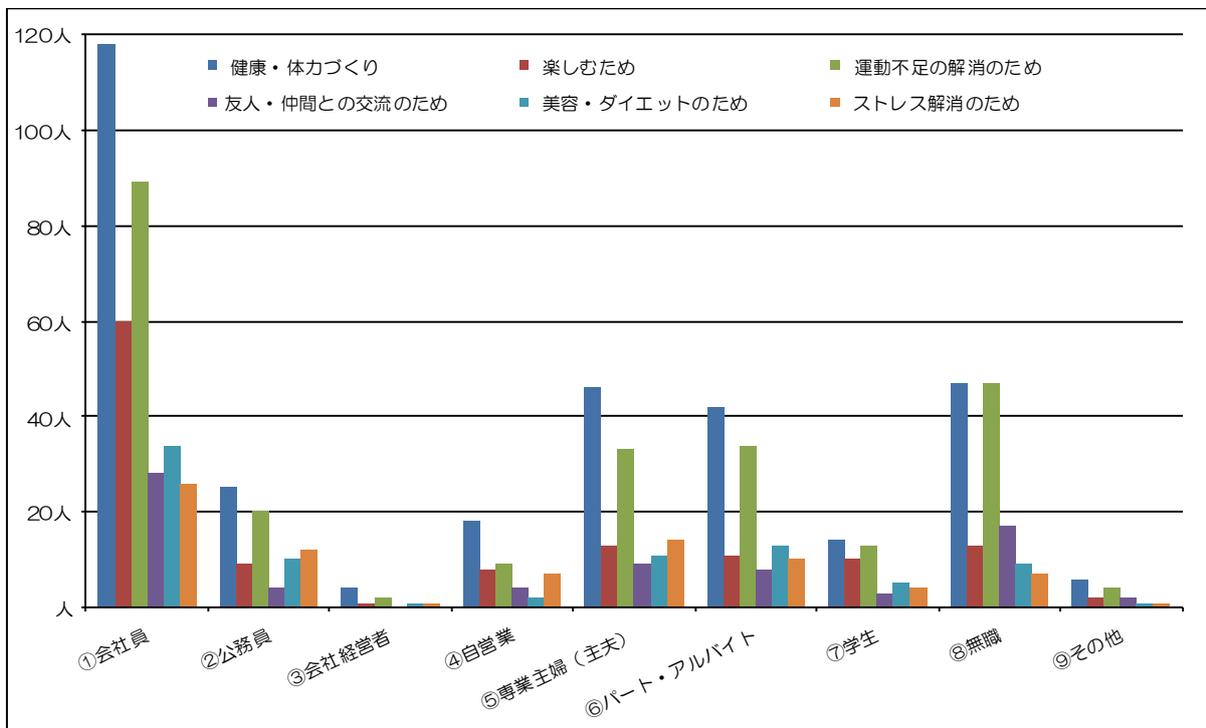
選択項目	令和元年度		平成28年度		増減比較
	人数	構成比	人数	構成比	
① 満足している	44	7.2%	29	8.6%	-1.4
② ある程度満足している	269	44.0%	131	38.9%	5.1
③ あまり満足していない	160	26.2%	84	24.9%	1.3
④ 満足していない	75	12.3%	27	8.0%	4.3
無回答	63	10.3%	66	19.6%	-9.3

## ～ アンケート集計結果グラフ ～

・問1－(2) この1年間に運動・スポーツを「した」と回答した方の主な理由  
(年代別)



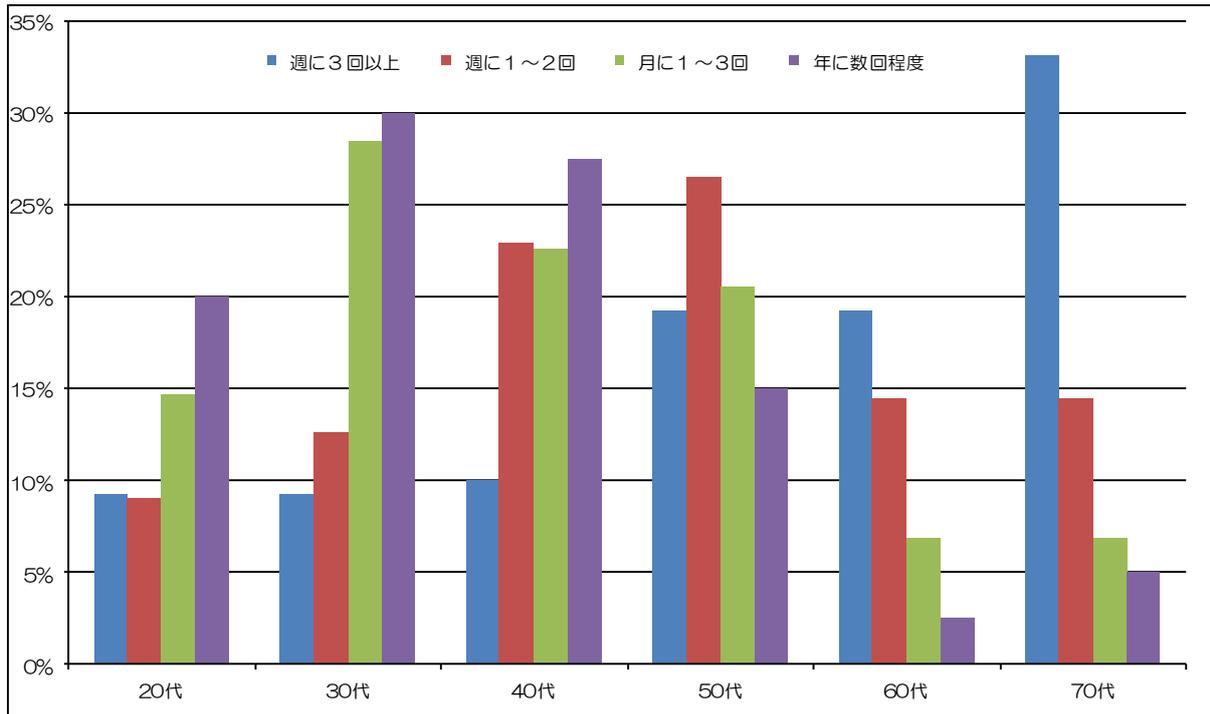
(職業別)



運動・スポーツに取り組んでいる主な理由として、20代から60代までの方は、「美容・ダイエットのため」と「ストレス解消のため」に、70代の方は、「友人・仲間との交流のため」に取り組んでいる回答が多い結果となった。また、職種を問わず「健康・体づくり」及び「運動不足の解消のため」に運動・スポーツに取り組んでいる方が多いことから、「健康・体づくり」を意識している方が多いと推測できる。

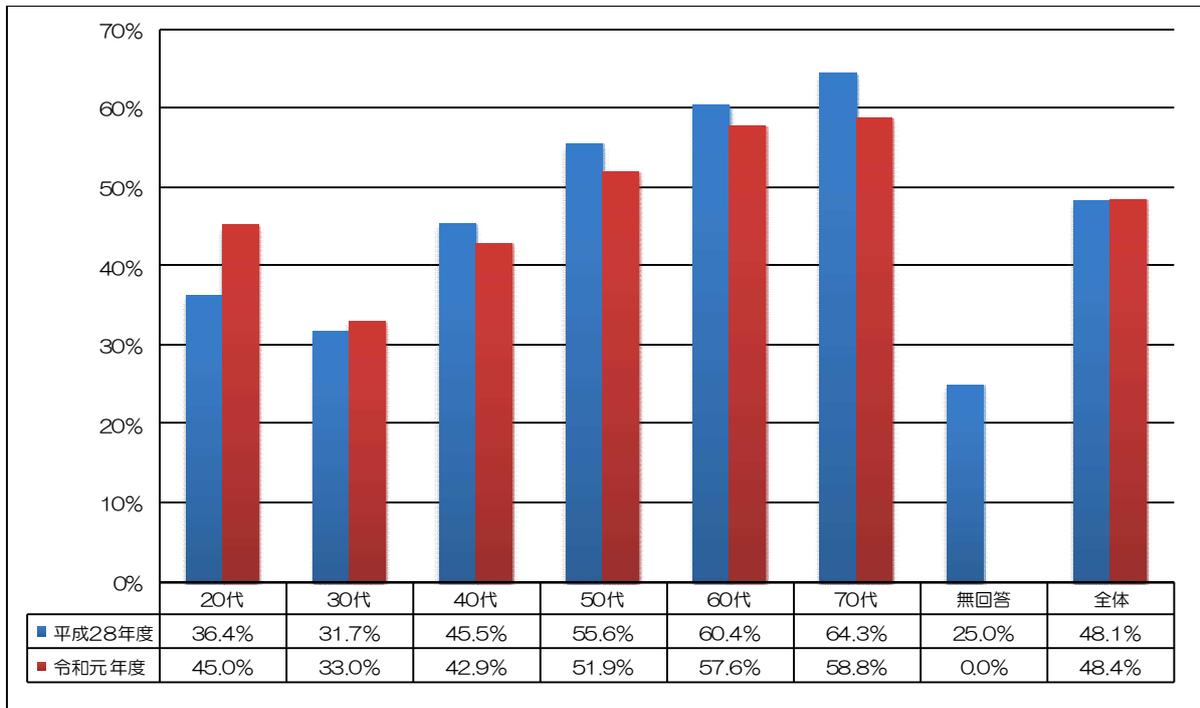
## ～ アンケート集計結果グラフ ～

### ・問1－(3) 運動・スポーツをする程度（年代別）



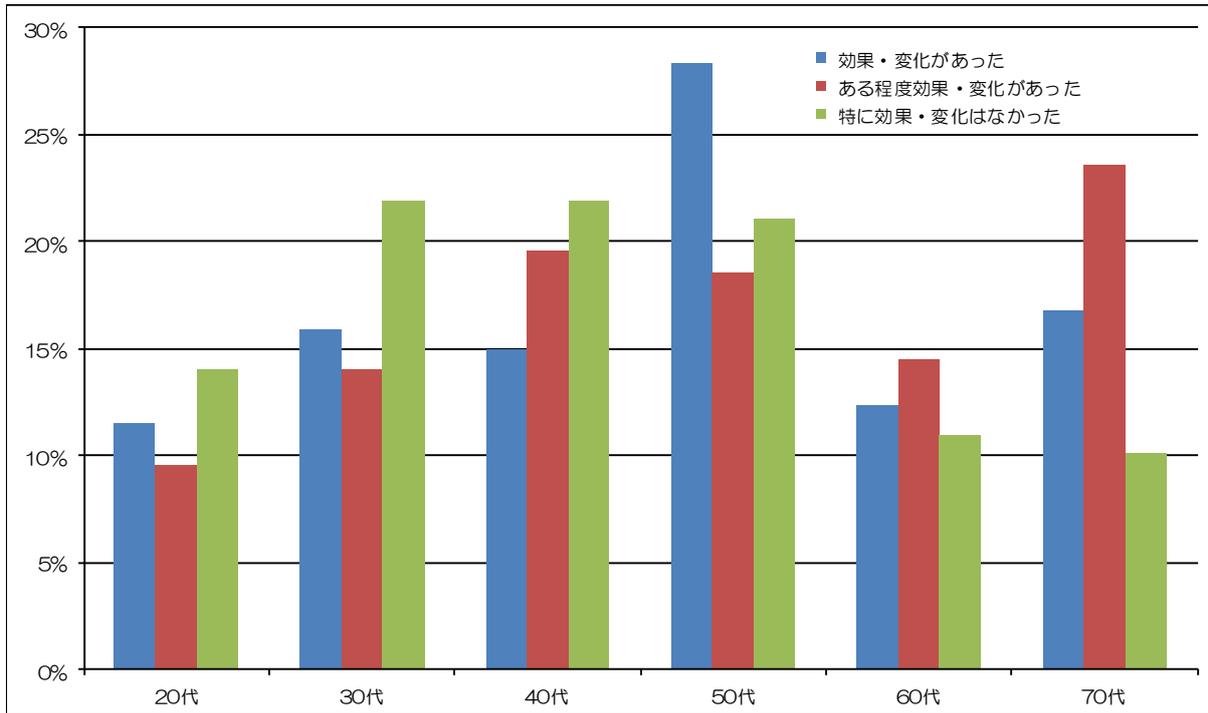
運動・スポーツをする程度について、20代から40代の方は「月に1～3回」と「年に数回程度」の回答が多いことから、時間の確保が難しい傾向があり、50代以上の方は「週に3回以上」と「週に1～2回」の回答が多いことから、比較的時間を確保しやすい傾向があると推測できる。

### ・週1回以上のスポーツ実施率の比較（年代別）

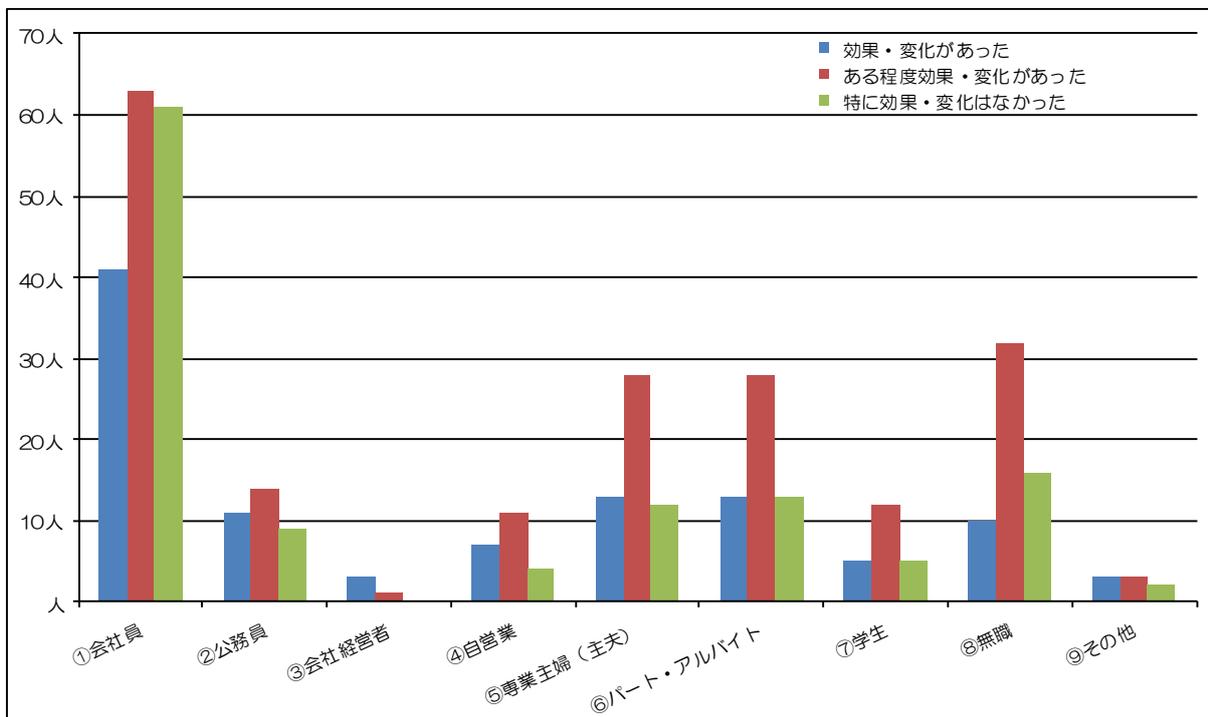


～ アンケート集計結果グラフ ～

・問1－(6) 運動・スポーツを「した」結果、健康面での効果・変化状況  
(年代別)



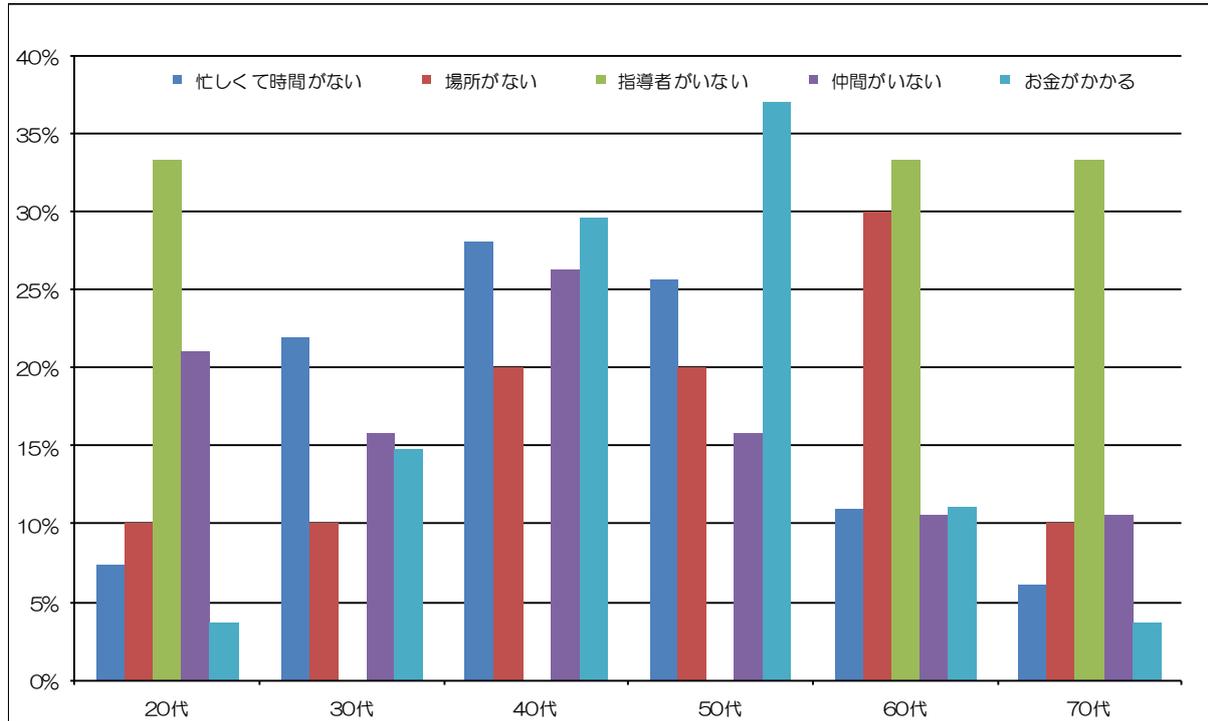
(職業別)



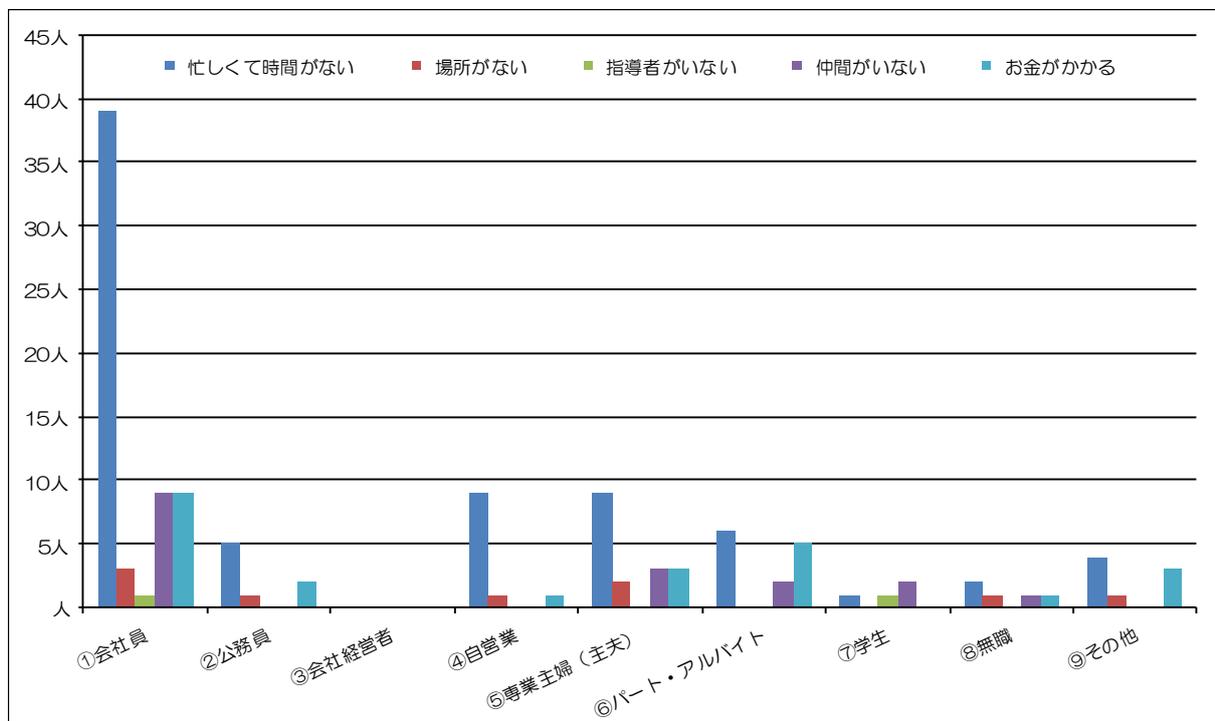
健康面での効果・変化について、20代から40代の方は「効果・変化はなかった」の回答が多いことから、効果・変化を実感しにくく、50代以上の方は「ある程度効果・変化があった」の回答が多いことから、効果・変化を実感していると推測できる。また、どの職種の方も運動・スポーツをしたことで、健康面について「ある程度効果・変化があった」と実感している方が多いと推測できる。

## ～ アンケート集計結果グラフ ～

・問1－(7) この1年間に運動・スポーツを「していない」と回答した方の主な理由  
(年代別)



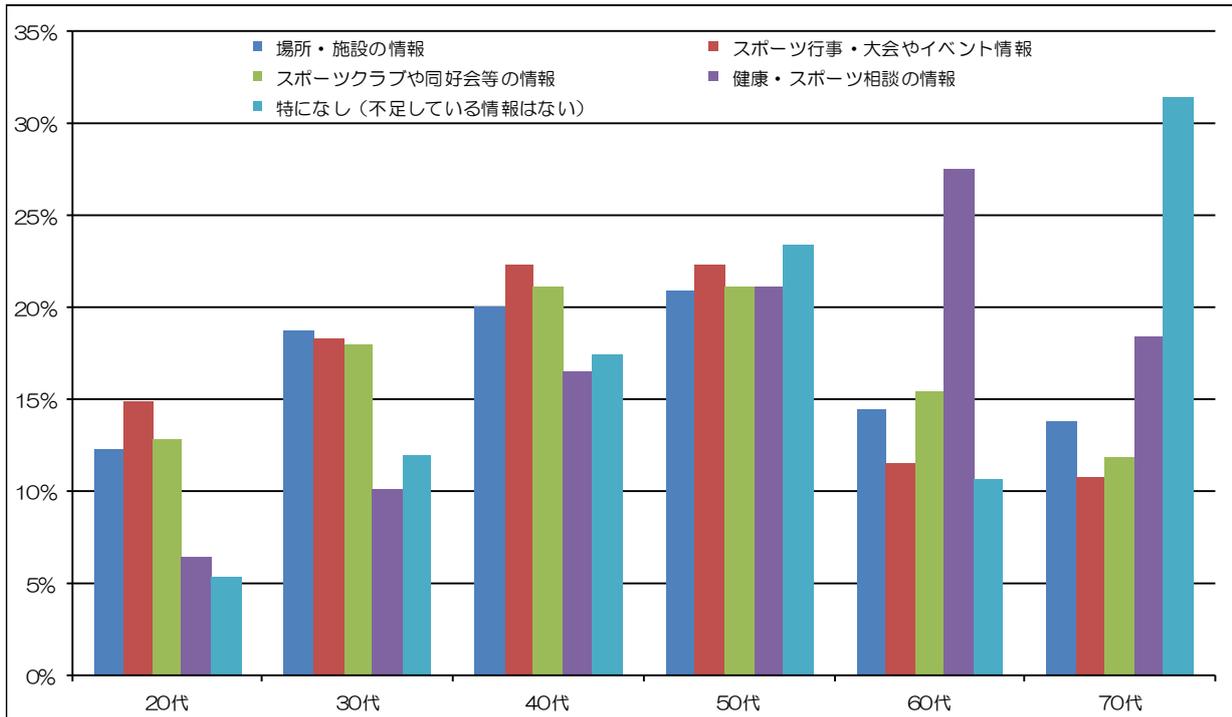
(職業別)



運動・スポーツをしていない理由として、30代・40代・50代の方は、「忙しくて時間がない」と「お金がかかる」が、20代・60代・70代の方は「指導者がいない」の回答が多い結果となった。また、どの職種の方も「忙しくて時間がない」の回答が多いことから、仕事や家事等に追われて時間不足であると認識されている方が多いと推測できる。

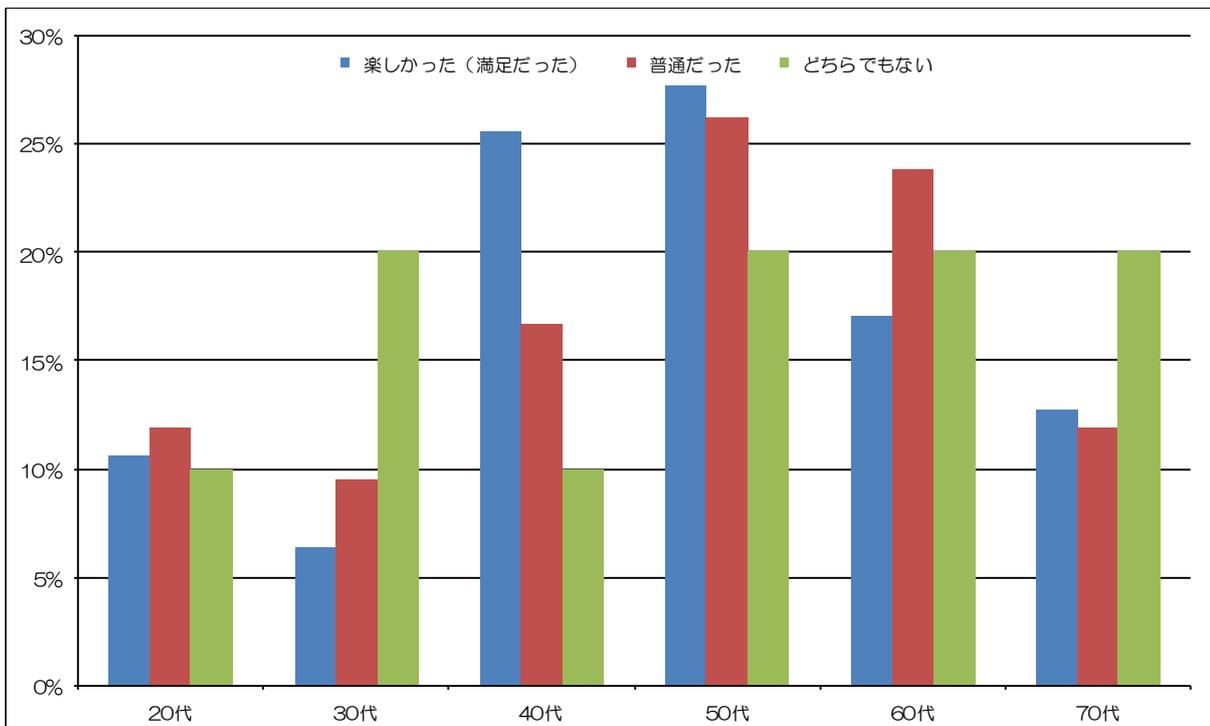
## ～ アンケート集計結果グラフ ～

### ・問8 スポーツに関する情報で不足している主な内容（年代別）



不足している情報について、20代・30代の方は「場所・施設情報」、「大会・イベント情報」、「スポーツクラブや同好会等の情報」の回答が多く、60代の方は「健康・スポーツ相談の情報」の回答が多い結果になった。40代・50代の方は全般的に情報不足の傾向がある反面、70代の方は情報が充実している傾向があると推測できる。

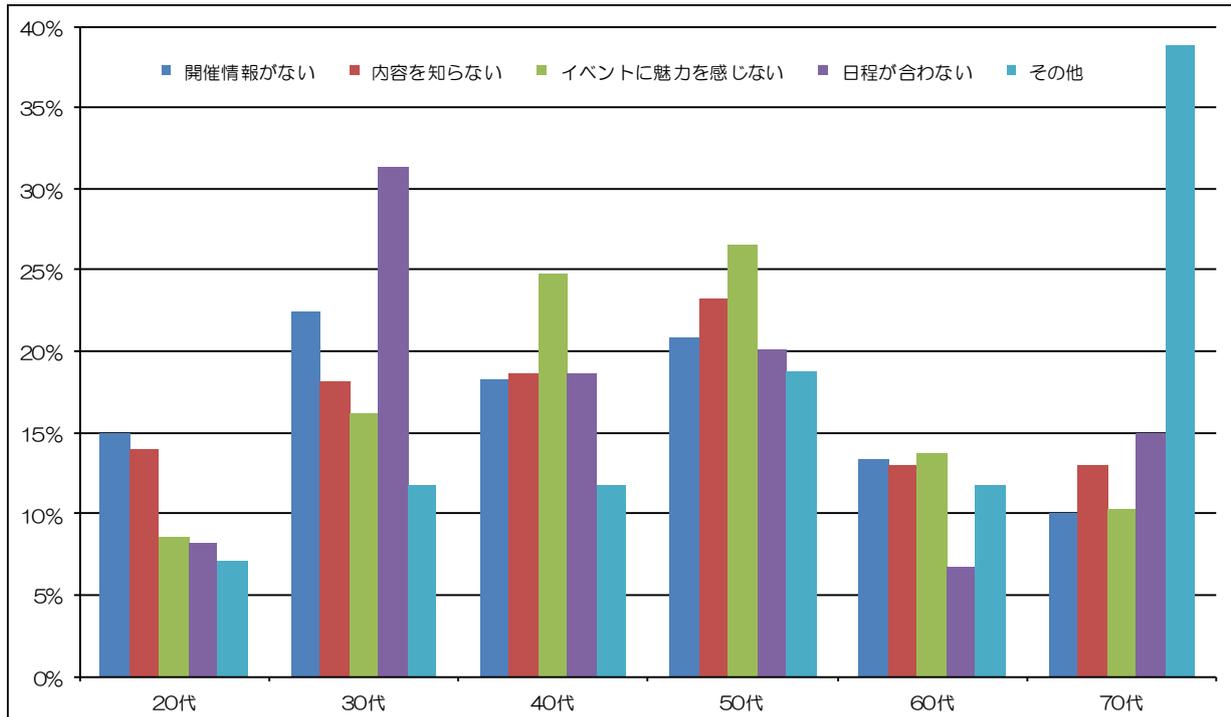
### ・問12-（1） 市スポーツ事業（イベント）に参加した結果の感想（年代別）



市スポーツ事業（イベント）に参加した感想として、40代・50代の方は、「楽しかった（満足だった）」の回答が多く、他の年代の方は「普通」と「どちらでもない」の回答が多い結果となった。

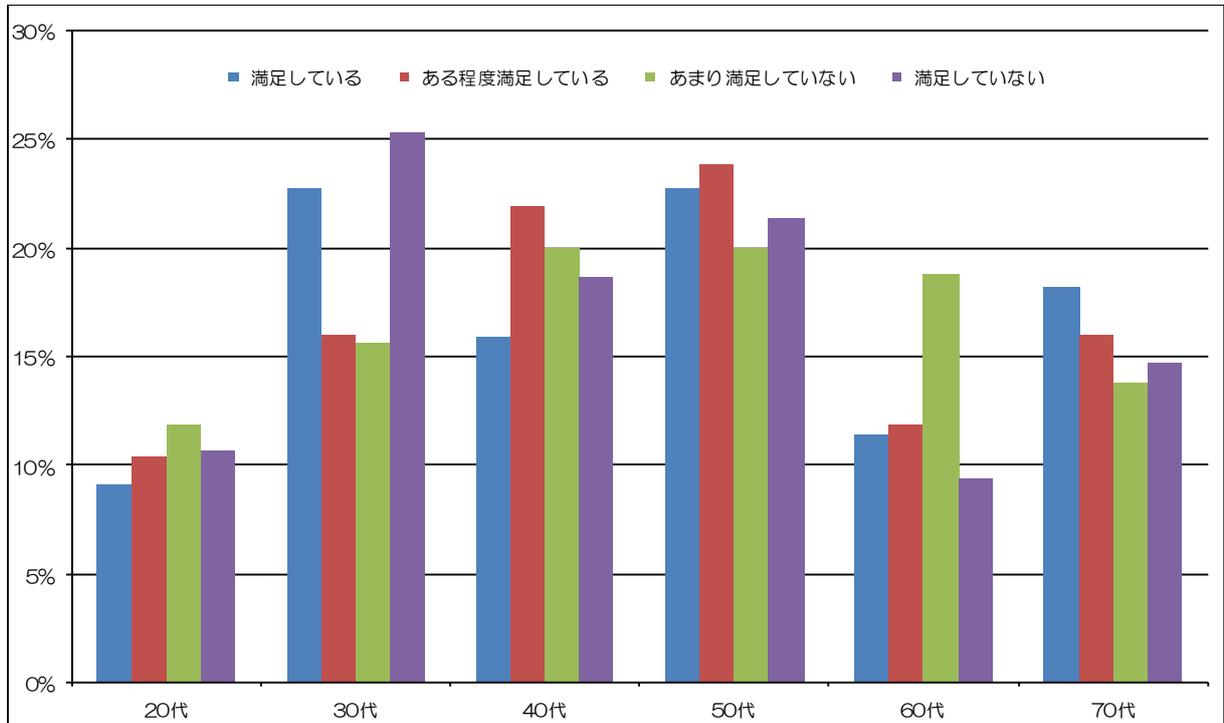
～ アンケート集計結果グラフ ～

・問12ー(2) 市スポーツ事業(イベント)に参加しなかった理由(年代別)



市スポーツ事業(イベント)に参加しなかった理由として、どの年代の方も「開催情報がない」、「内容を知らない」、「イベントに魅力を感じない」の回答が多い結果となったことから、市民に情報が十分には行き届いていないと推測できる。

・問14 市のスポーツ施策の満足度(年代別)



市のスポーツ施策の満足度について、全体的にどの年代の方も「満足している」と「満足していない」がそれぞれ約半数の回答結果となった。

計画策定の経過

年 月 日		内 容
令和元年度	令和元年7月3日	第1回 朝霞市スポーツ推進審議会
		スポーツに関するアンケート調査の概要を委員へ報告及び調査内容の検討
	令和元年10月24日	第2回 朝霞市スポーツ推進審議会
		アンケート調査票の最終確認
令和元年11月16日から 12月25日まで	スポーツに関するアンケート調査の実施	
令和2年2月17日	第3回 朝霞市スポーツ推進審議会	
	アンケート調査の集計結果を委員に報告	
令和2年度	令和2年6月26日	第1回 朝霞市スポーツ推進審議会
		第2期朝霞市スポーツ推進計画（素案）の検討
	令和2年10月16日	第2回 朝霞市スポーツ推進審議会
		第2期朝霞市スポーツ推進計画（素案）の検討
	令和2年11月1日から 11月30日	パブリックコメントの実施
令和2年12月18日	第3回 朝霞市スポーツ推進審議会	
	パブリックコメントの結果を委員に報告	

朝霞市スポーツ推進審議会委員名簿

(任期：令和元年7月1日から令和3年6月30日まで)

選出の根拠	氏名	職業又は所属
1号委員	◎ 石原 茂	朝霞市体育協会
1号委員	奥山 直希	朝霞市ソフトテニス連盟
1号委員	齋藤 光司	元小学校長
1号委員	塩味 光夫	朝霞市卓球協会
1号委員	○ 渋谷 昇	朝霞市陸上競技協会
1号委員	下田 英吾	朝霞市スポーツ推進委員
1号委員	鈴木 静江	朝霞市レクリエーション協会
1号委員	鈴木 哲郎	東洋大学教授
1号委員	高橋 義正	公募委員
1号委員	馬場 典成	朝霞市スポーツ少年団
1号委員	松尾 哲	朝霞市自治会連合会
2号委員	嶋 徹	朝霞市中学校体育連盟会長
2号委員	土屋 馨	朝霞市小学校体育連盟会長
2号委員	尾作 元基 (令和元年9月26日まで)	朝霞警察署生活安全課
2号委員	稲葉 博子 (令和元年9月27日より)	
2号委員	小玉 佳也 (令和2年3月31日まで)	埼玉県立朝霞高等学校長
2号委員	柳川 典昭 (令和2年4月1日より)	

※ ◎：会長 ○：副会長

(令和2年10月1日現在)

※ 1号委員：学識経験者 2号委員：関係行政機関の職員

第2期朝霞市スポーツ推進計画

(令和3年3月発行)

編集・発行：朝霞市教育委員会

生涯学習部 生涯学習・スポーツ課

〒351-8501 朝霞市本町1丁目1番1号

TEL：048-463-2403 (直通)

URL：http://www.city.asaka.lg.jp